



HYOGO UNIVERSITY OF
TEACHER EDUCATION



第15回（令和3年度）学生生活実態調査報告書
令和4年3月発行

令和3年度
第15回

学生生活実態 調査報告書

Hyogo University of Teacher Education



国立大学法人
兵庫教育大学

まえがき

第 15 回「学生生活実態調査」の報告書をお届けします。これは令和 3 年度（2021 年度）に実施した調査について、その概要をまとめたものです。

この調査は原則として 2 年に 1 度実施しています。本学の学部と大学院（修士課程・専門職学位課程・博士課程）の学生の生活状況や生活意識の実態を把握し、学生生活の充実に役立てることが本調査の目的です。

調査項目は、通学、食事、学生寄宿舍、施設・設備、課外活動、アルバイト、ハラスメントなど学生生活全般にわたっています。また、自由記述欄を設け、大学への要望や期待について学生の生の声を集めています。

今回の調査結果には、約 1 年半にわたるコロナ禍を過ごしてきた学生の生の声が如実に現れています。この報告書は、読みやすくわかりやすい体裁になっていますので、コロナ禍での学生の状況を把握するためにも是非ご一読下さい。また、全データの詳細については、第 15 回学生生活実態調査報告書資料編の冊子をご覧下さい。

これらの調査結果をもとに、学生の皆さんがより充実した学生生活を送れるように、学生支援のあり方を検討し、大学として計画的に支援の充実に取り組んでいきます。

コロナ禍で大変な時期に調査に回答してくださった学生の皆さん、調査の実施に際してご協力いただきましたクラス担当教員や指導教員の先生方、ありがとうございました。さらに、調査結果の分析と本報告書の執筆にご尽力いただいた学生委員会委員の先生方および学生支援課の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和 4 年 3 月
兵庫教育大学 学生委員会委員長
笠原 恵



contents

	基本事項	1
	就職	2
	学生寄宿舍	6
	通学	8
	食事	9
	売店等	10
	アルバイト	11
	附属図書館	12
	学生生活等	14
	課外活動	16
	国際交流	18
	交通安全等	20
	健康	21
	ハラスメント	22
	大学への要望等	23
	参考資料	27



兵庫教育大学では原則として2年ごとに、学部と大学院（修士課程・専門職学位課程・博士課程）に在籍する全学生を対象に、学生生活実態調査を実施している。今回はその 15 回目にあたり、令和3年(2021年)10月にアンケート調査を行った。その結果、学部生420名、大学院生279名、合計699名から回答が寄せられた。

表1 学校教育学部

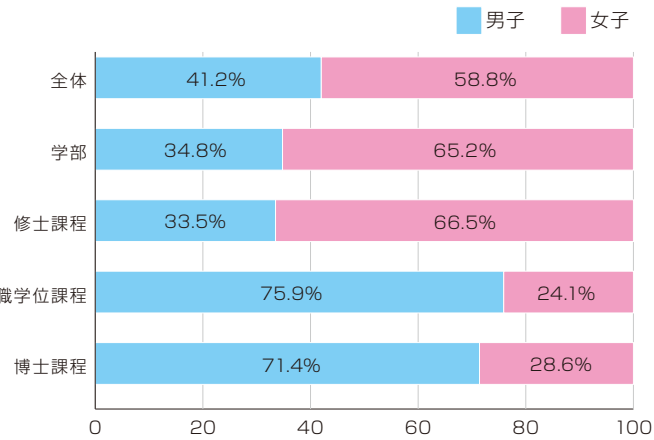
学年	対象者数	回収数	回収率
1年次	166	143	86.1%
2年次	167	103	61.7%
3年次	166	122	73.5%
4年次	173	52	30.1%
合計	672	420	62.5%

表3 大学院学校教育研究科（専門職学位課程）

学年	対象者数	回収数	回収率
1年次	101	59	58.4%
2年次	90	38	42.2%
3年次	15	11	73.3%
合計	206	108	52.4%

回答者の性別は、学部生では**約65%が女子学生**、大学院全体では**男女ほぼ同じ**

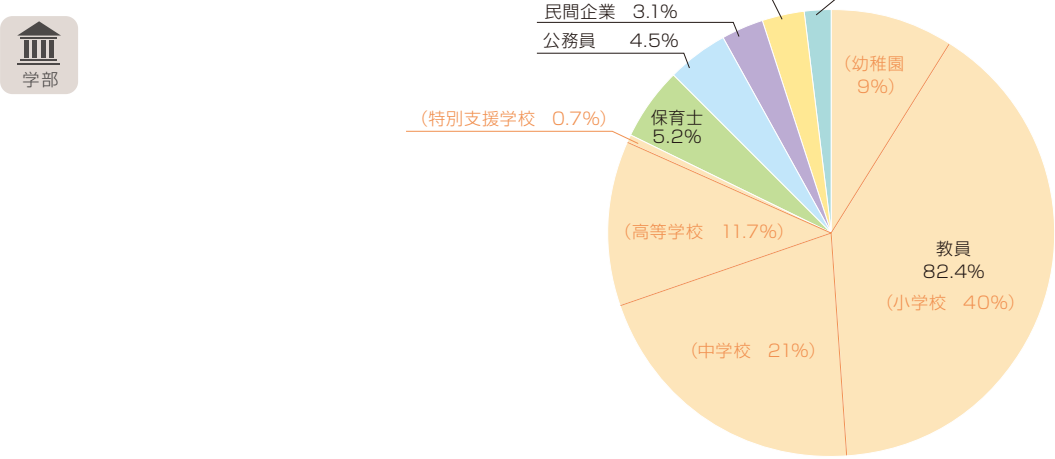
グラフ Q：回答者の性別構成



学部生の教員・保育士志望は88%（前回86%）であり、そのうち教員志望は82%（前回81%）であり、いずれも前回からやや増加している。前回に比べると、幼稚園教員は9%（前回6%）、中学校教員は21%（前回15%）、高等学校教員は12%（前回10%）、特別支援学校教員は0.7%（0.5%）、保育士5.2%（4.9%）と増

加しているものの、小学校教員は40%（前回49%）と減少している。中学校教員と小学校教員についてのみ前々回からの比較で見ても、小学校教員は前々回50%から今回10%減少と減少傾向にある一方で、中学校教員は前々回12%から今回9%増加と増加傾向にある。

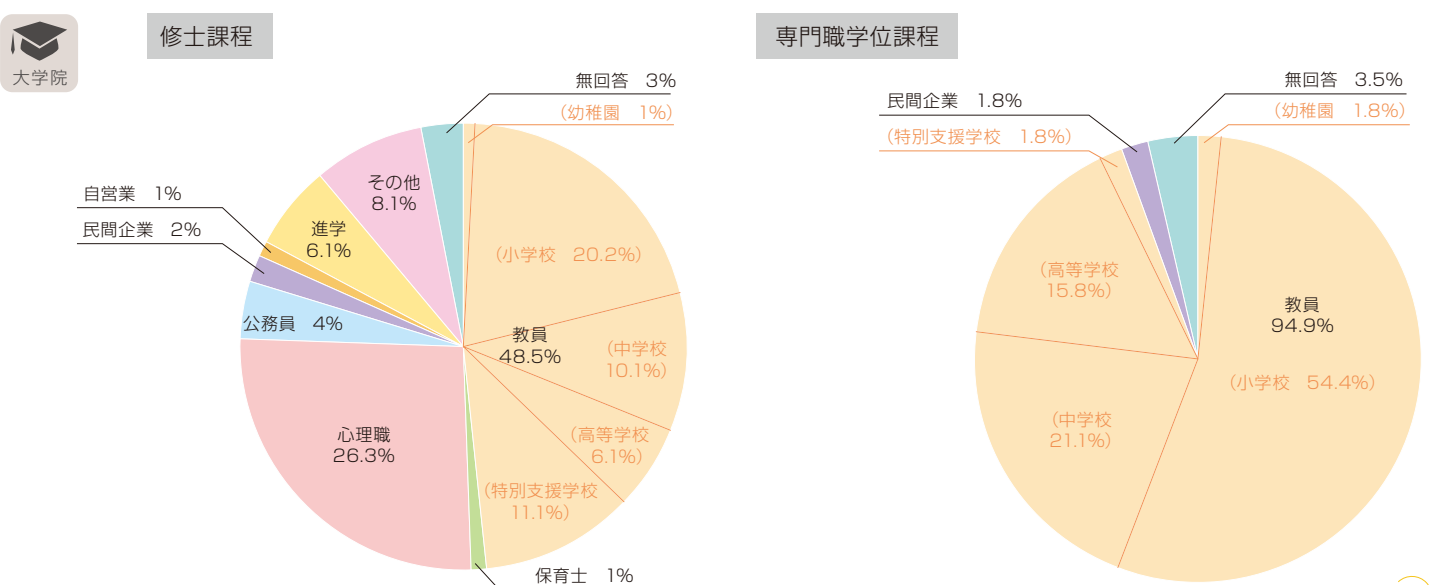
グラフ Q：卒業後の第1志望進路



大学院生の教員志望者は、修士課程49%、専門職学位課程95%

修士課程の教員志望は、既に職に就いている者を除いた割合では、教員志望が95%であり、前回(94%)より増加している。は、49%であり、前回(50%)より減少している。専門職学位課程

グラフ Q：卒業後の第1志望進路はなんですか。（職に就いている者を除く）



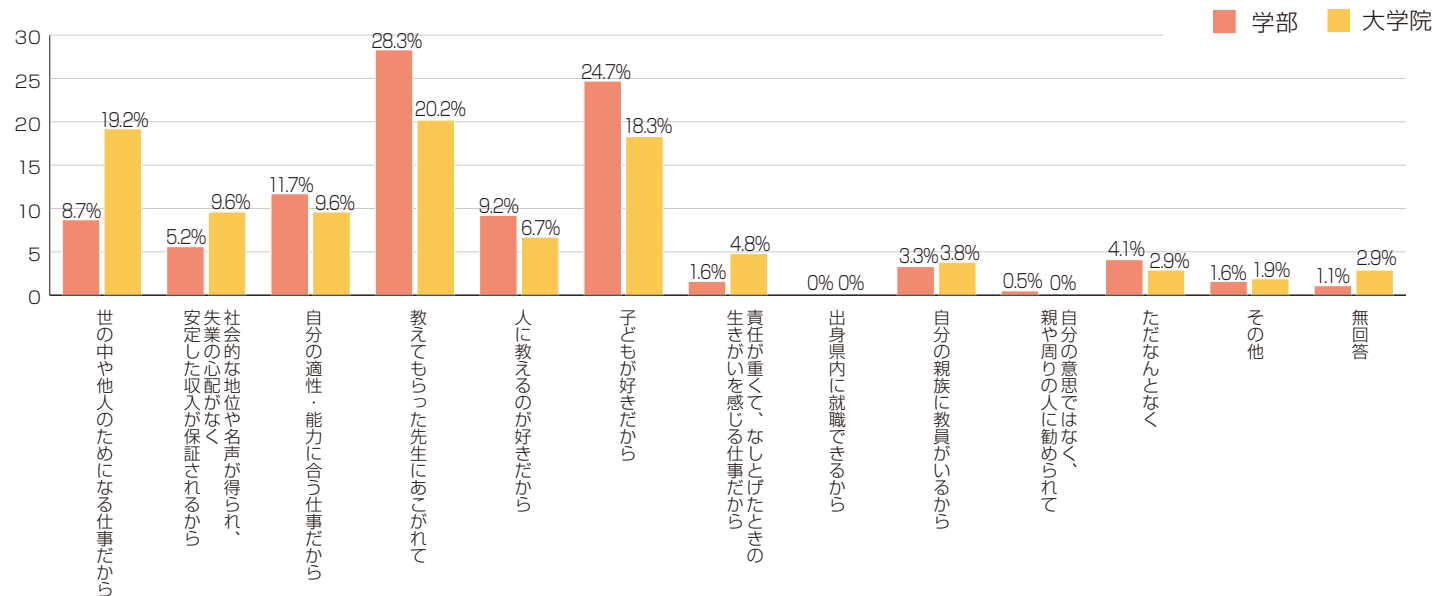


教員志望理由の1位は、学部生、大学院生ともに「教えてもらった先生にあこがれて」

学部生の教員志望理由の1位は「教えてもらった先生にあこがれて」(28%)、2位は「子どもが好きだから」(25%)、3位は「自分の適性・能力に合う仕事だから」(12%)となっている。1位と2位は前回と同じである。

大学院生の教員志望の1位は「教えてもらった先生にあこがれて」(20%)、2位は「世の中や他人のためになる仕事だから」(19%)、3位は「子どもが好きだから」(18%)となっている。1位から3位までは割合としてはあまり変わらない状況である。

グラフ Q: 教員・保育士に就きたい理由(教員、保育士に就きたいと回答した者のみ)



教員・保育士を志望しない理由の

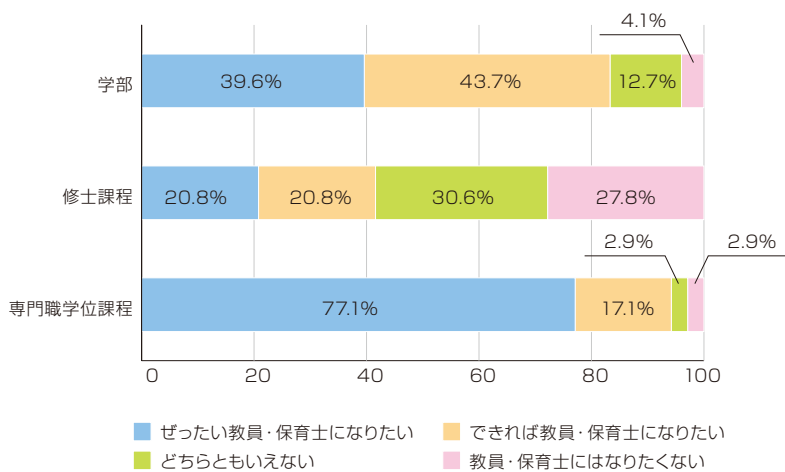
1位は、学部生は「勤務条件が厳しいから」、大学院生は「自分の適性・能力に合っていないから」



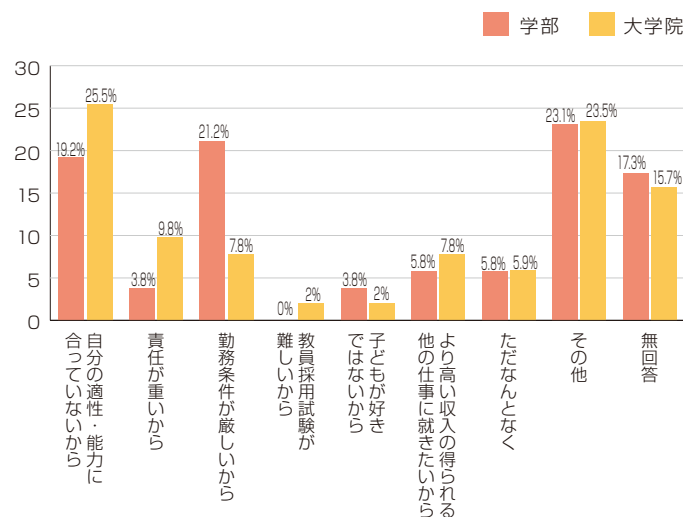
学部生83%、修士課程42%、専門職学位課程94%

現在の教員・保育士への志望度は、「ぜったい教員・保育士になりたい」と「できれば教員・保育士になりたい」を合わせて、学部生83%、修士課程42%、専門職学位課程94%であった。前回との比較では学部生(前回79%)、専門職学位課程(前回91%)は増加しているが、修士課程(前回57%)は減少している。学部生について「どちらともいえない」「教員・保育士にはなりたくない」を合わせた割合を年次別に見たところ、1年次9%、2年次28%、3年次14%、4年次28%と年次によりばらつきがあるが、年次が上がるにつれて、割合が上昇していくのではないかとと思われる。

グラフ Q: 現在の教員・保育士への志望度



グラフ Q: 教員・保育士を志望しない理由

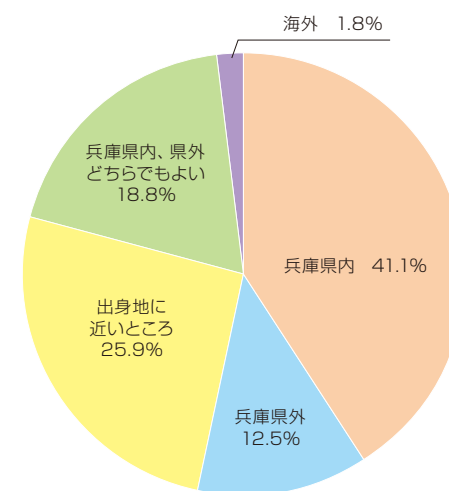
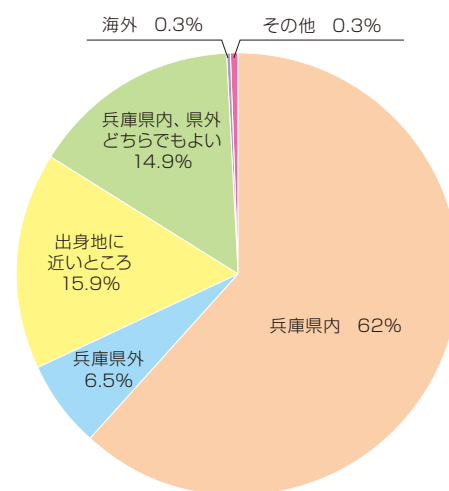


学部生の就職希望地域は、兵庫県内が62%

学部生が就職を希望する地域は、兵庫県内が62%であり、前回(57%)から少し増加し、依然兵庫県内の希望が高い傾向にある。大学院生の就職を希望する地域は、兵庫県内が41%(前回3

2%)と前回より多くなっている。「兵庫県外」は13%(前回11%)、「出身地に近いところ」は26%(前回18%)、「兵庫県内、県外どちらでもよい」は19%(前回16%)であり、学部生よりも多様化している。

グラフ Q: 就職する地域

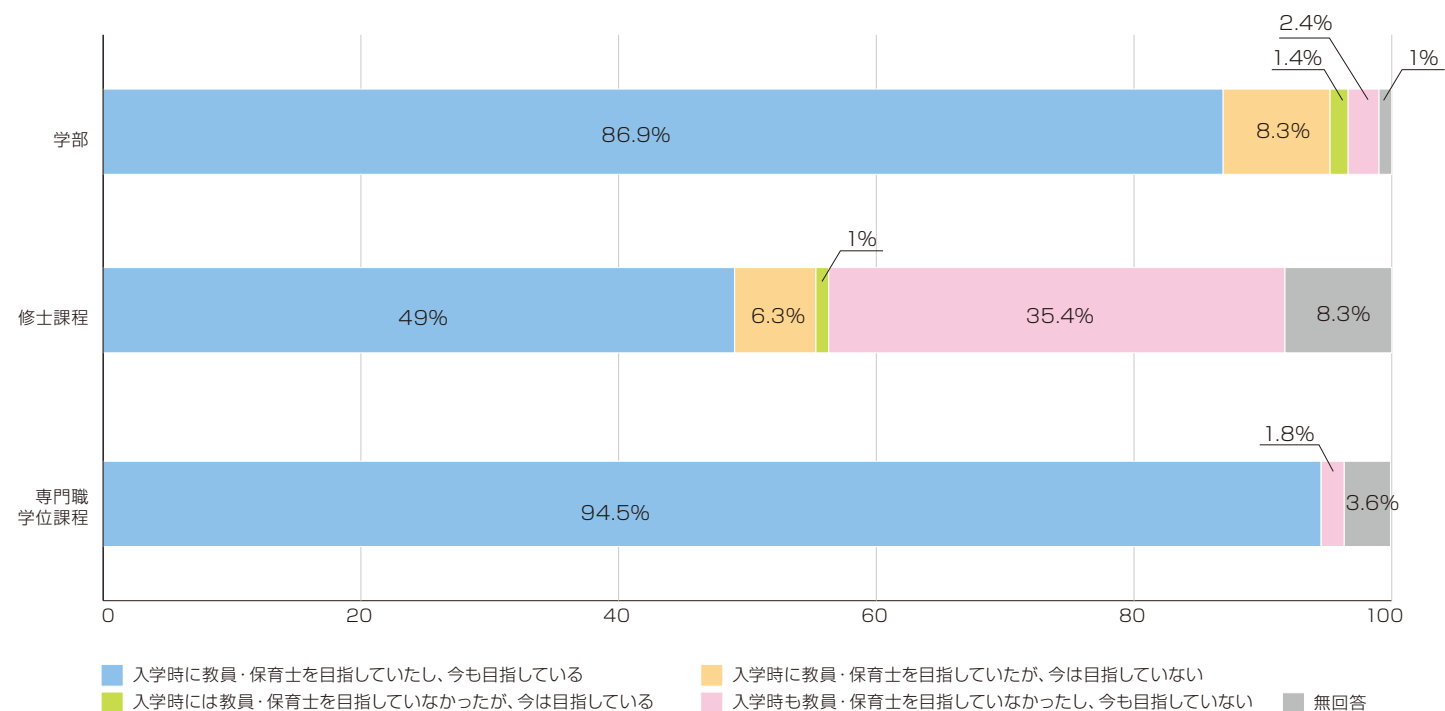


「今も目指している」は、学部生87%、修士課程49%、専門職学位課程95%

教員・保育士志望については、「入学時に教員・保育士を目指していたし、今も目指している」は学部生87%、修士課程49%、専門職学位課程95%であり、学部生で前回(80%)、専門職学位課程

で前回(91%)を上回っている。学部生の「入学時に教員・保育士を目指していたが、今は目指していない」は8%であり前回(12%)より減少しているが、依然として大きな課題の一つである。

グラフ Q: 教員・保育士志望の入学時からの気持ちの変化



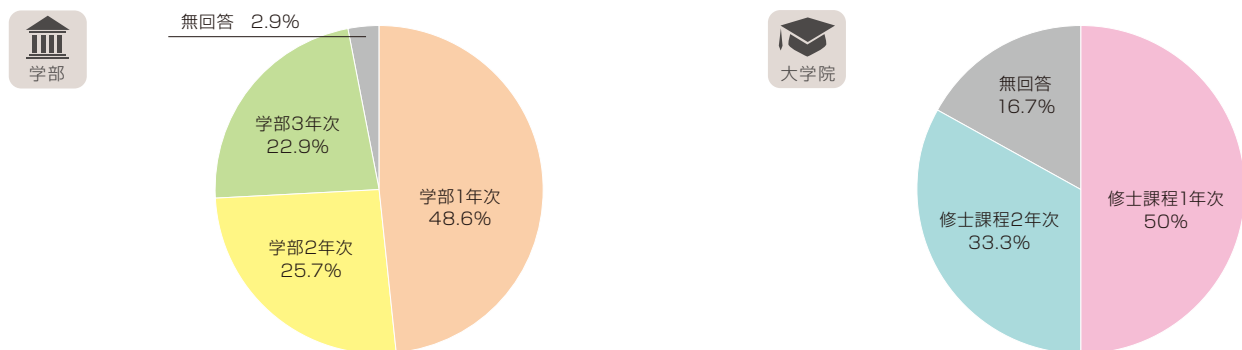


学部生の気持ちが「今は目指していない」と変わった時期は、 「学部1年次」49%、「学部2年次」26%、「学部3年次」23%

学部生の気持ちが変わった時期は、「学部1年次」49%、「学部2年次」26%、「学部3年次」23%の順に多く、学部1年次が前回(34%)より増加している。

大学院生の気持ちが変わった時期は、「修士課程1年次」50%、「修士課程2年次」33%の順に多くなっている。

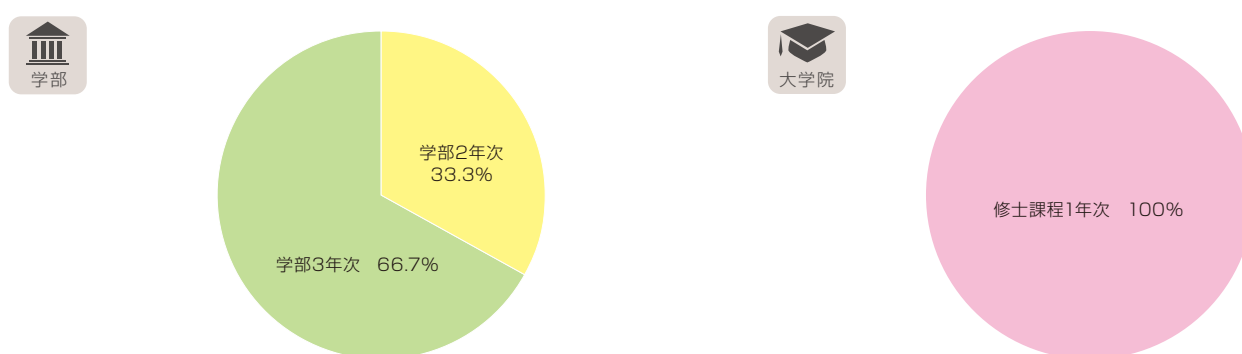
グラフ Q: 気持ちが変わった時期(入学時に目指していたが、今は目指していない)



学部生の気持ちが「今は目指している」と変わった時期は、 「学部3年次」67%

学部生の気持ちが変わった時期は、「学部3年次」67%(前回47%)、「学部2年次」33%(前回5%)の順に多く、それぞれ前回よりも増加している。ただし、母数が少ない(今回6人、前回19人)ことから、これをもって何らかの傾向が変わったと判断することはできない。

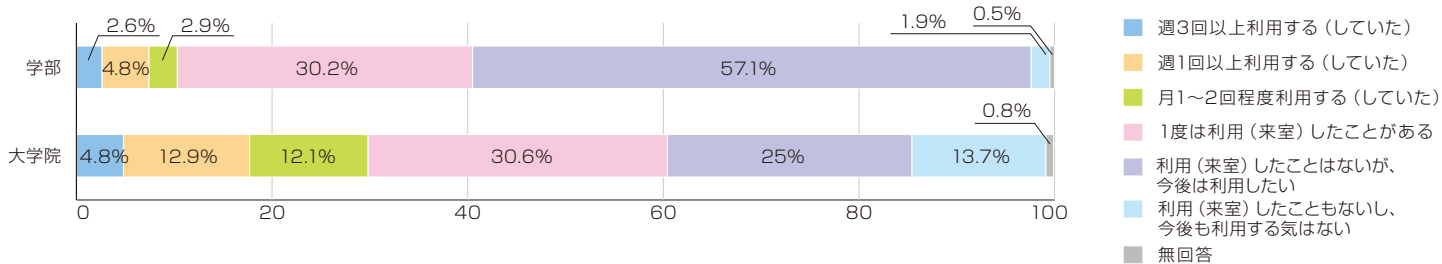
グラフ Q: 気持ちが変わった時期(入学時に目指していなかったが、今は目指している)



キャリアセンターは、学部生の41%、大学院生の61%が利用

教職キャリア開発センターを利用(来室)したことがある学生は、全体では45%(学部生41%、大学院生61%)と前回(55%)より減少しているが、コロナにより大学の入構規制等があったことが影響していると考えられる。そのような中で、専門職学位課程は82%と高い利用であり、前回(79%)からさらに増加している。

グラフ Q: 教職キャリアセンターの利用



学生寄宿舍の入居状況をみると、学部生は36%(1年次45%、2年次32%、3年次31%、4年次29%)、大学院生は20%(修士20%、専門職19%、博士14%)が「入居している」に該当していた。前回調査では学部生38%、大学院生34%であったことから、全体的に入居率の低下がみられる。学生寄宿舍に入居して満足しているところは、学部生、大学院生ともに「入居費が安い」「構内にあり便利」が上位2位にみられた。3位としては、学部生は「友達がいる楽しい」、大学院生は「個室である」であった。

学生寄宿舍の入居者が、土足での出入りや迷惑駐車等、入居者規則の違反が生じていることについて、学部生は51%が「現状のままでよい」、27%が「入居者の規則や心得をさらに厳しくして違反者には厳正に対処する」、21%が「入居者の自覚を促すための対策を講じる」といったように現状維持への志向が若干多い。大学院生については、それぞれ28%、49%、7%、と、学部生と比較すると厳正対処への希望が22%ほど多い。

学生寄宿舍の清掃や消防訓練等、嬉野村厚生会の自治活動への参加について、「いつも参加している」のは学部生17%(1年次5%、2年次6%、3年次37%、4年次40%)、大学院生47%(修士26%、専門職74%)であり、その内訳をみると専門職学位課程の大学院生の参加率が高い状況にある。

学生寄宿舍の入居者全員が快適に過ごせるようコミュニケーションを深める工夫については、「現状のままでよい」(学部生68%、大学院生58%)、「集会所を設ける等、施設・設備を改善する」(学部生21%、大学院生19%)、「学生寄宿舍のイベントを行う」(学部生

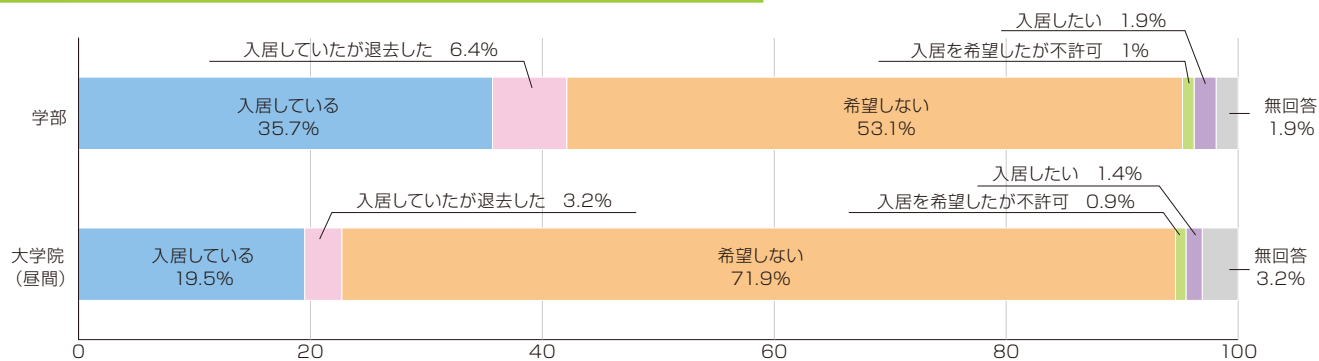
11%、大学院生14%)といったように学部生と大学院生との意識にそれほど大きな差はみられない。しかしながら、「学生寄宿舍のイベントを行う」ことを回答している者の内訳として、学部生では1年次17%、2年次6%、3年次8%、4年次0%)、大学院生では修士9%、専門職16%であり、特に1年次の学部生や専門職の院生の割合が高い一方で、2年次以上の学部生や修士課程の院生は10%未満であるなど、その考え方に学年毎の差がみられる。

学生寄宿舍での生活に何を望むかについて、上位にみられるのは「寄宿舍がきれい」「入居費が安い」「部屋内に風呂やトイレがある」「部屋がある程度広い」である。しかしながら、「部屋がある程度広い」については、学部71%、大学院33%と、学部生と大学院間での差が大きい。なお、管理人の有無や、食堂・フリースペースがあることは、前回と同様にあまり重視されていない。また、指定された駐車場の要望については、全体として28%と前回に比べ21%減少している。

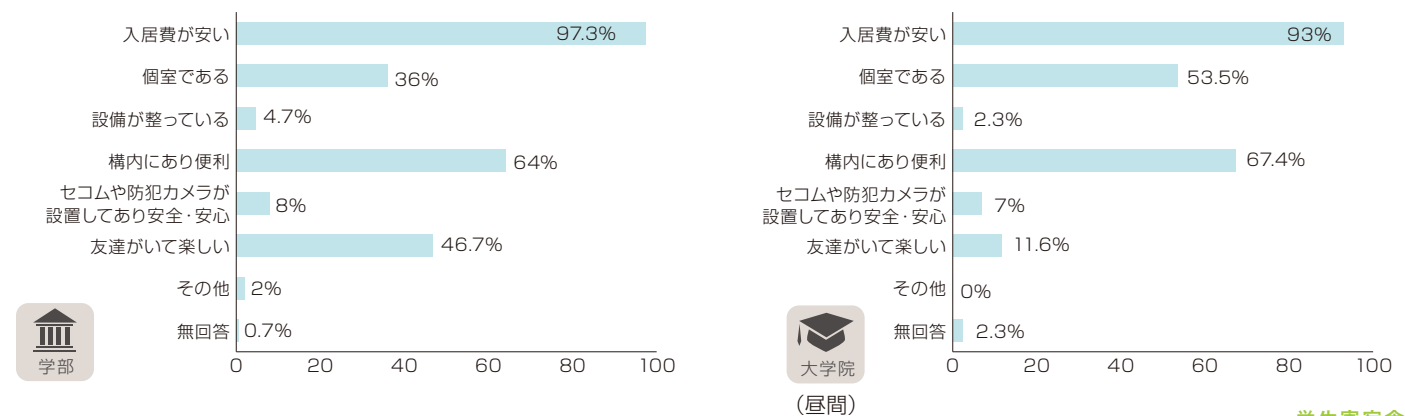
将来、新しい学生寮が建設された場合、入居費はいくらまでであれば入居するかについて、単身寮は15000円以内、世帯寮は25000円以内を望む者は、それぞれ3割強、4割程度となっており、これは前回の調査に比べそれぞれ約10%減少している。

前年度からの変化として、学生全体としてみた場合には、それぞれの質問に対する各回答割合の変化は大きくはないものの、入居率や自治活動への参加率の低下、また指定駐車場の要望の減少については顕著であった。また、部屋に求める面積などは学部生と大学院生において差が見られる。学生生活の状況の変化や生活意識の差に対応できるようなサポート環境の構築が、よりよい学生寄宿舍の住環境づくりに求められているといえる。

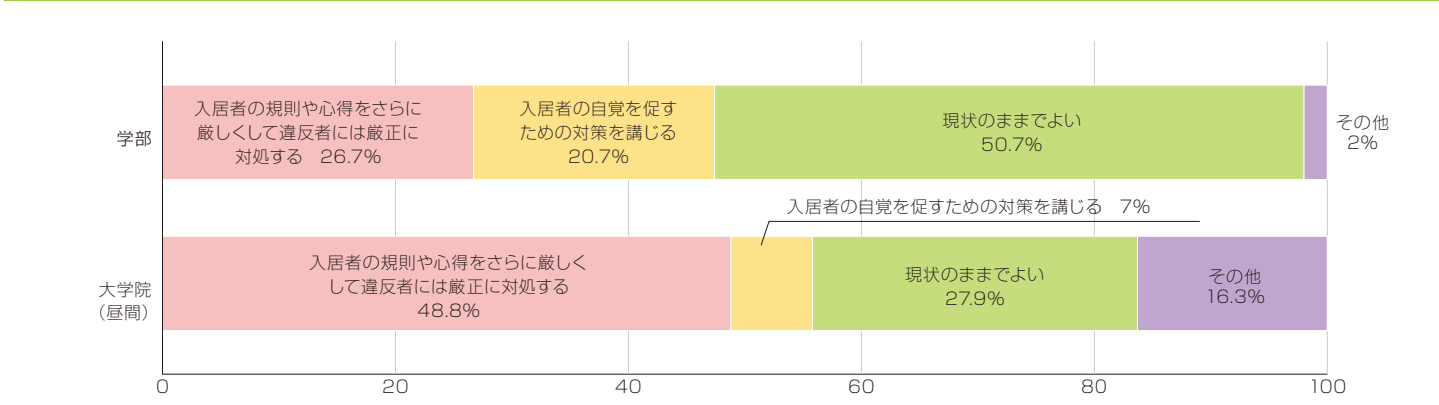
グラフ Q: 学生寄宿舍の入居についてお答えください。



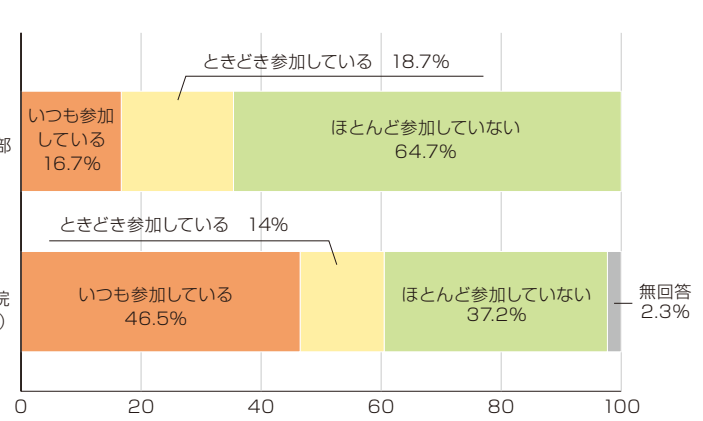
グラフ Q: 入居していて、満足しているところはどこですか。



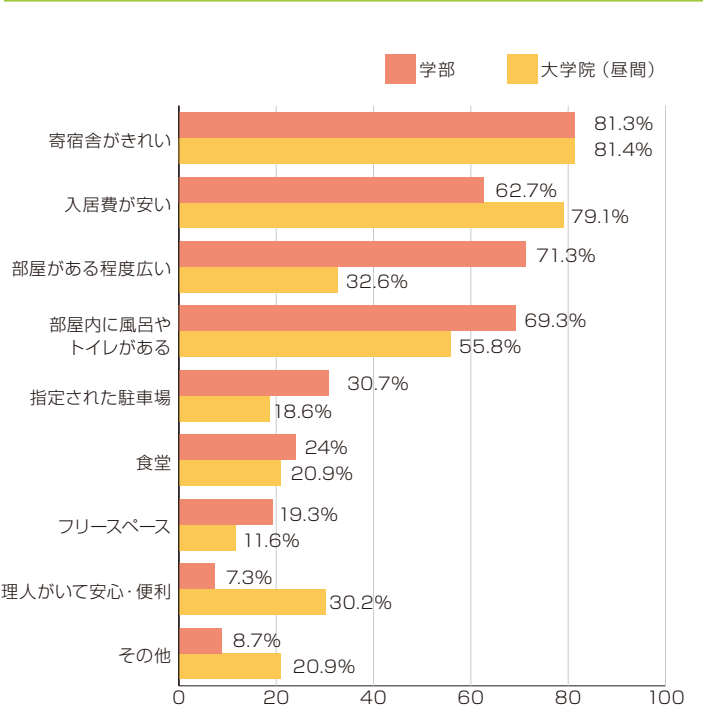
Q：近年、学生寄宿舍において、土足での入出、迷惑駐車等、入居者規則や心得を守らない事例が発生していますが、規則違反問題についてどのように考えますか。



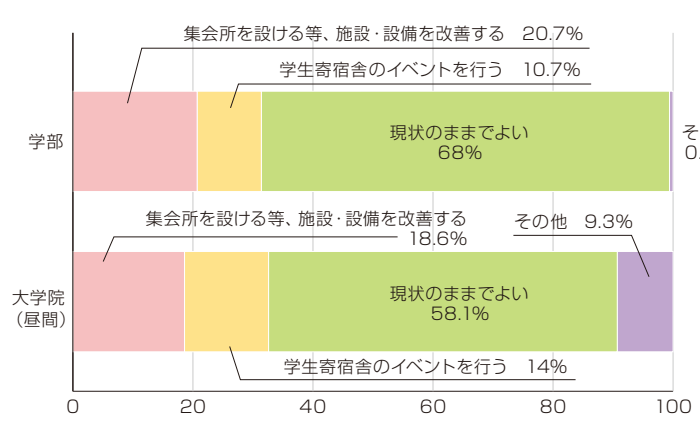
Q：学生寄宿舍の清掃や消防訓練等、嬉野村厚生会の自治活動に参加していますか。



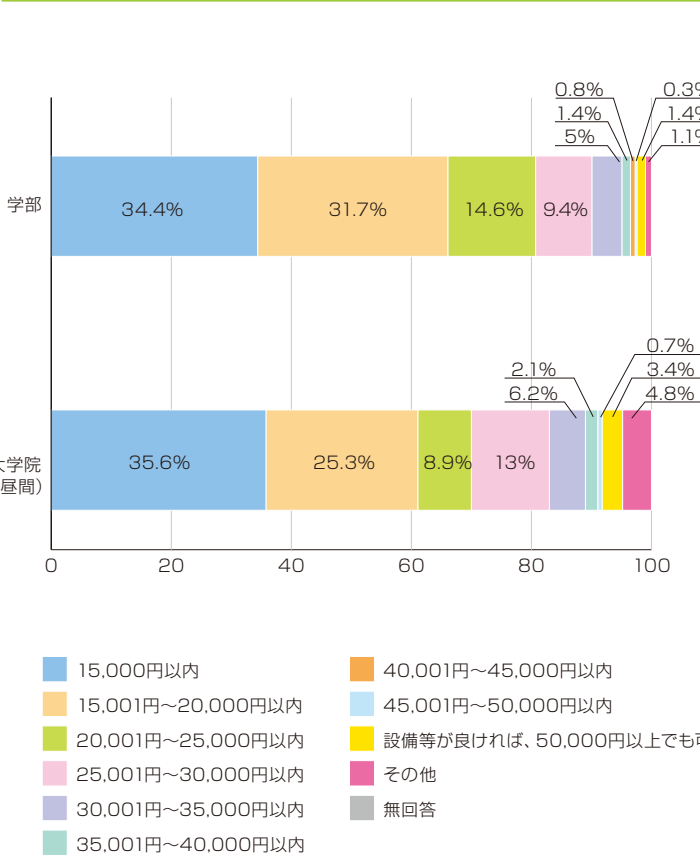
Q：学生寄宿舍での生活に何を望みますか。



Q：学生寄宿舍の入居者全員が快適に過ごせるよう、入居者同士のコミュニケーションを深めるため、どのようにすればいいと考えますか。



Q：将来新しい学生寮 (単身用) が建設された場合、入居費 (光熱水費を含む) は、いくらまでであれば入居しますか。 (「独身」「単身」の者のみ)

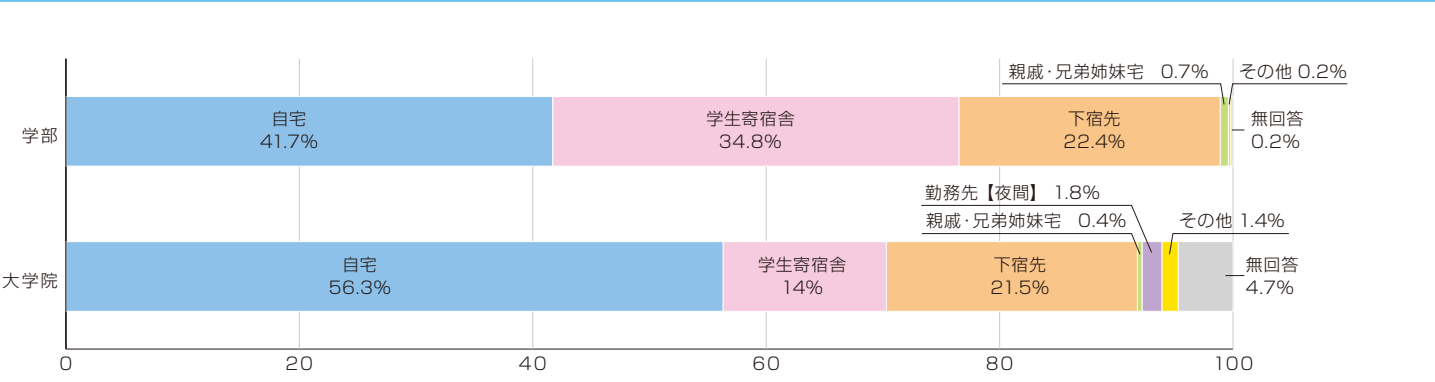


学生がどこから通学しているかについては、「自宅」48%、「学生寄宿舍」27%、「下宿先」22% の順に多いが、学部生は「自宅」42%、「学生寄宿舍」35%、「下宿先」22% である一方で、大学院生は「自宅」56%、「学生寄宿舍」14%、「下宿先」22% と自宅からの通学率が高い。

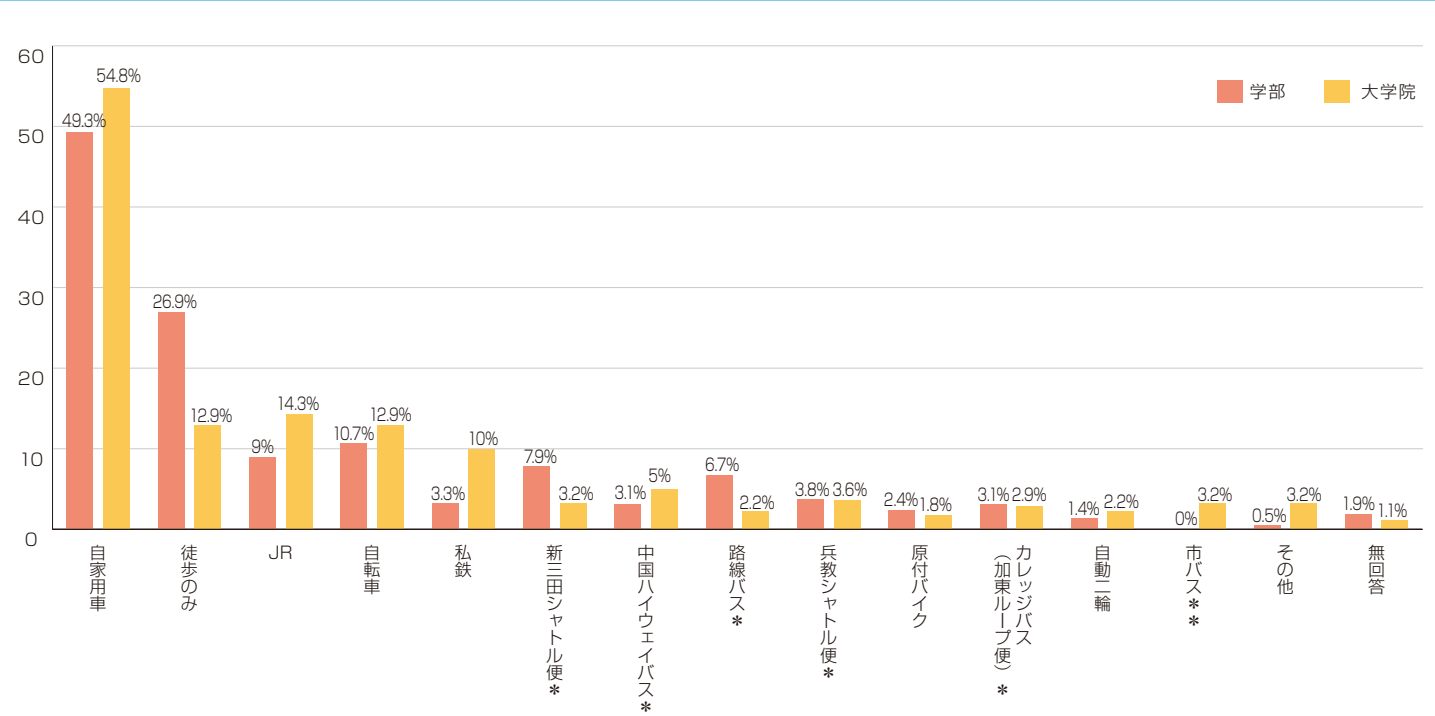
通学手段については、学生全体として、「自家用車」が 52% (学部生 49%、大学院生 55%)、続いて「徒歩」が 21% (学部生 27%、

大学院生 13%)、「自転車」が 12% (学部生 11%、大学院生 13%) であった。また周辺の公共交通機関である路線バス (学部生 7%、大学院生 2%) や中国ハイウェイバス (学部生 3%、大学院生 5%)、JR (学部生 9%、大学院生 14%)、私鉄 (学部生 3%、大学院生 10%) などの利用や、大学が提供している新三田シャトル便 (学部生 8%、大学院生 3%)、兵教シャトル便 (学部生 4%、大学院生 4%)、カレッジバス (加東ループ便) (学部生 3%、大学院生 3%) の利用もみられた。

Q：大学へはどこから通学していますか。



Q：通学に何を利用していますか。





食生活について、【朝食】を食べる場所は、「自宅」51%、「学生寄宿舍」17%、「下宿先」12%、「大学食堂」5%の順に多い。【朝食】を「あまり食べない」者は5%（学部生6%、大学院生4%）、「ほとんど食べない」者は9%（学部生8%、大学院生10%）と両者合わせると14%であり、これは前回の調査（19%）から減少している。なお「あまり食べない」や「ほとんど食べない」と回答した者については、2、および3年次の学部生でそれぞれ19%、および19%、修士課程、また専門職学位課程の大学院生でそれぞれ14%、および14%と割合が高い。

【昼食】を食べる場所は、「大学食堂」37%、「自宅」19%、「学生寄宿舍」17%、「下宿先」9%の順に多く、大学院生にはゼミ室・院生室との回答もみられた。「学外の飲食店」で食べる割合については、全体で6%（学部生：1年次4%、2年次7%、3年次12%、4年次2%）（大学院生：修士課程5%、専門職学位課程6%、博士課程29%）である。【昼食】に使える金額について「メニューや内容等が良ければ550円以上でも可」31%、「451円～500円」21%、「351円～400円」17%の順に多い。

【夕食】を食べる場所は、「自宅」54%、「学生寄宿舍」19%、「下宿先」13%の順に多い。「学外の飲食店」で食べるという割合は、全体で8%（学部生：1年次8%、2年次10%、3年次10%、4年次6%）（大学院生（昼間クラス）：修士課程3%、専門職学位課程9%、博士課程0%）と、【朝食】（1%）に比べて外食率が高い。夜間クラス、および臨床心理学コースの大学院生については、【夕食】の外食率（2%）、および「持参・購入してきたものをキャンパス内で食べる」中食の割合（7%）は、前回調査結果（それぞれ16%、および

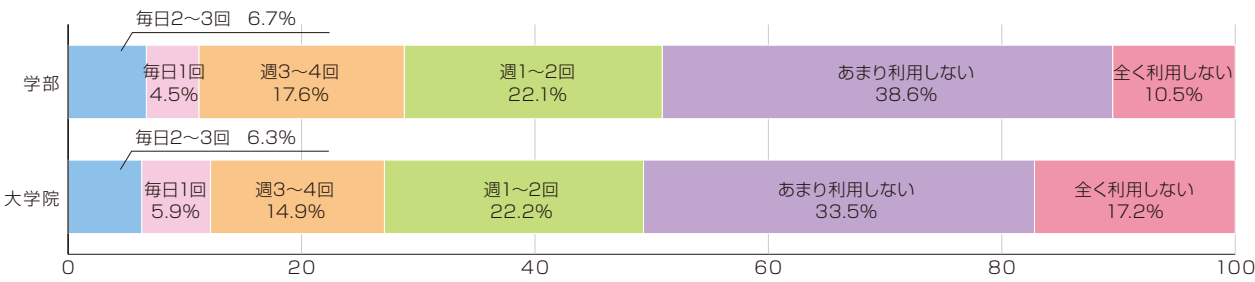
23%）から大きく減少しており、対して「自宅に帰宅してから食べる」内食の割合（91%）が前回調査結果（48%）から大きく上昇している。

大学食堂の利用について、「あまり利用しない」37%（前回27%）、「全く利用しない」13%（前回8%）といった者は前回の調査よりも上昇し、「週1～2回」22%（前回24%）、「週3～4回」17%（前回22%）といったように利用者が減っている。毎日利用しているのは1年次の学部生（毎日1回6%、毎日2～3回15%）の割合が最も高い。主に、昼食時の利用が全体で70%であり、女子（63%）よりも男子（76%）の利用率が高い。また「朝食と夕食」（全体で9%）、「朝昼夜の3食すべて」（全体で6%）、または「昼食と夕食」（全体で5%）を学食に頼っている者も僅かではあるが存在することから、栄養面でのサポートや、その自主的管理ができるような栄養の見える化の取組みなどが引き続き望まれる。

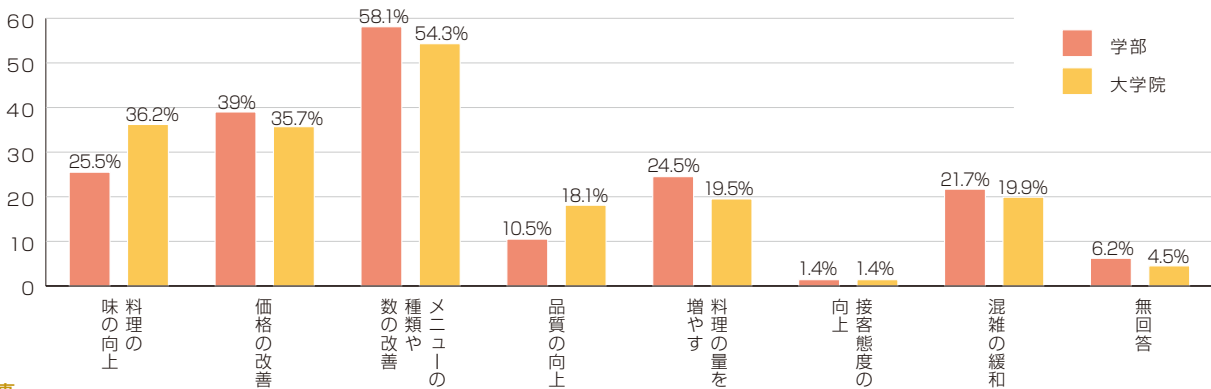
大学食堂に希望することについて、全体的には「メニューの種類や数の改善」57%、「価格の改善」38%、「料理の味の向上」29%が上位3位にみられる。詳細をみていくと、「メニューの種類や数の改善」については男子（50%）よりも女子（62%）の割合が高く、「価格の改善」については女子（34%）よりも男子（44%）の希望が多く、また「料理の味の向上」については学部生（26%）よりも大学院生（36%）の方が高い。

夜間クラス、および臨床心理学コースの大学院生が神戸ハーバーランドキャンパス内の福利厚生で利用しているものについては、「飲料自動販売機」が59%（前回8%）と大きく上昇し、いっぽうで前回調査時に多かった「無料コーヒー」は3%（前回4.5%）、「ミネラルウォーターサーバー」は0%（前回23%）となった。

グラフ Q：大学食堂をどれくらい利用しますか。



グラフ Q：今後、大学食堂に希望することは何ですか。（3つまで回答可）

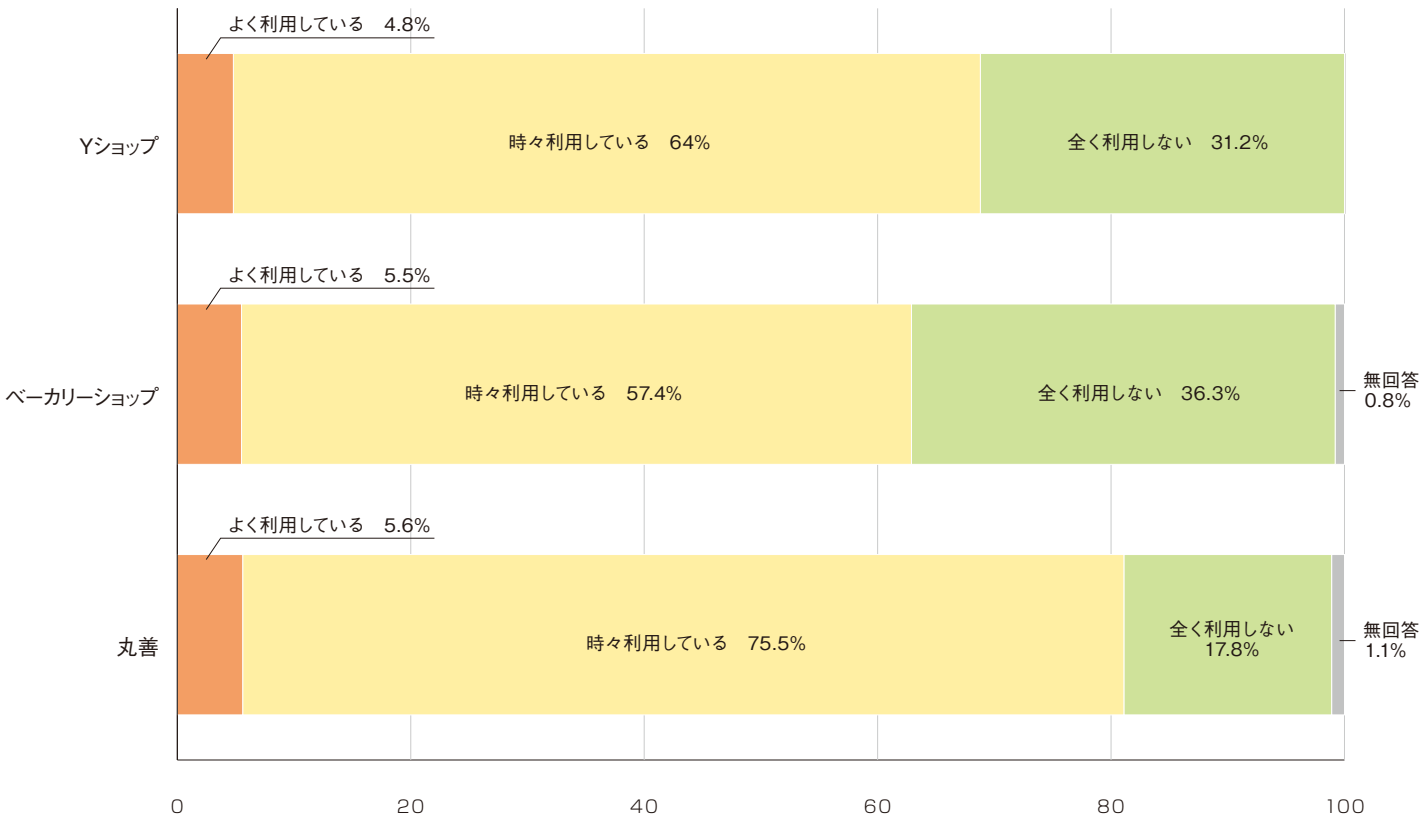


学内の①売店（Y ショップ）、②ベーカリーショップ、③書籍売店（丸善）について、「よく利用している」「時々利用している」を合わせた割合（全体）は、それぞれ①69%、②63%、③81%である。前回調査（93%、69%、79%）と比較すると、すべてにおいて減少しており、とくに①売店については、大きな減少がみられる。①売店については、「全く利用しない」と回答した者は31%と、前回の調査（5%）よりもおおきく増加している。また、②ベーカリーショップと③書籍売店（丸善）を「全く利用しない」と回答した者がそれぞれ②

36%、③18%おり、前回の調査（②26%、③15%）よりも利用しない割合が高まっている。

①売店（Y ショップ）に希望することとしては、「食料品の種類や品数の改善」54%、「営業日・時間の改善」49%、「価格の改善」32%が上位3位にあり、これは前回の調査（それぞれ58%、44%、37%）とほぼ変わっていない。今後これらの意見が反映されていくことが、学生にとってより過ごしやすいキャンパスとなることから、学生の参画も踏まえて学内施設の整備が行われていくことが望まれる。

グラフ Q：現在の日用品売店（Yショップ）、ベーカリショップ、書店売店（丸善）をどの程度利用していますか。



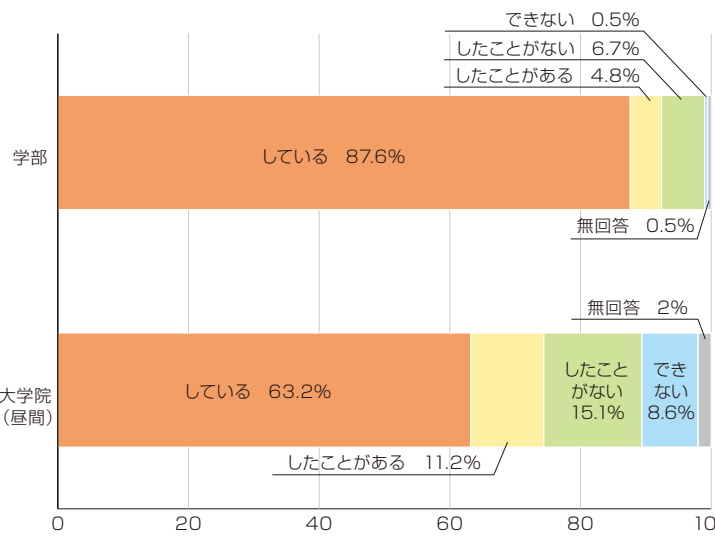


「アルバイトをしている・したことがある」という学生の割合は、年々増加傾向にある(学部生 92.4%、大学院生 74.4%)。「アルバイトの従事時間」を比較すると、18時から22時に集中していることがわかる。したがって、授業を終えてから、アルバイトを行っている学生がほとんどであるといえる。

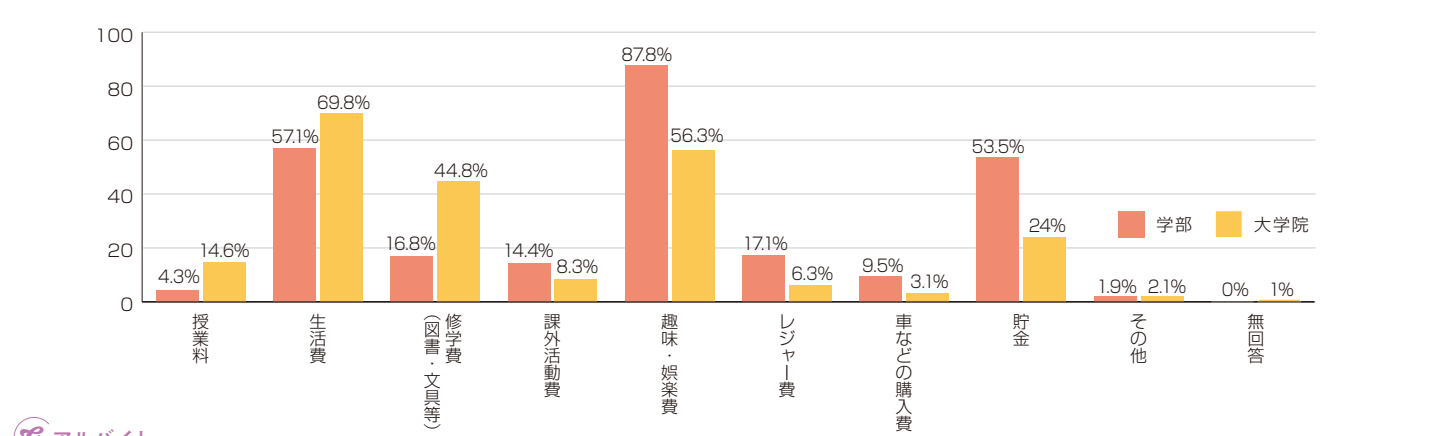
「アルバイト収入の主な使途」では、主に「趣味・娯楽費：81.3%」、「生活費：59.7%」、「貯金：47.4%」であった。この結果について、2017年度と比較すると、「趣味・娯楽費」の割合に大きな差異はないが、「生活費」は減少し、「貯金」が増加していた。

「アルバイトのトラブルの有無」については、全体で「いいえ」が91.4%であった。この結果は、2017年度(75.9%)、2019年度(72.8%)と比較して、高い割合で、アルバイト中に学生がトラブルに巻き込まれなかったことを意味する。「アルバイトでトラブルに

グラフ Q: 本学に入学後アルバイトをしていますか、または、したことがありますか。



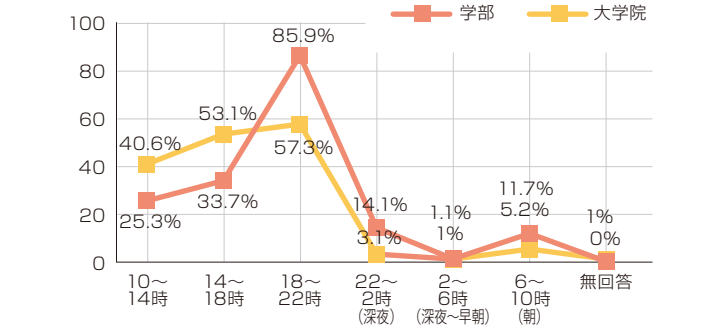
グラフ Q: アルバイト収入の主な使途は何ですか。



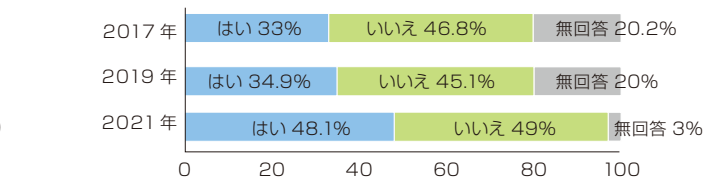
なった場合、労働基準監督署に相談窓口があることを知っていますか。」という質問に対して、「はい」と回答する割合が年々高まっていることから、認知度は高まっていることが伺えた(2017年度：33.0%、2019年度：34.9%、2021年度：48.1%)。

以上の結果から、自己の「趣味や娯楽」だけでなく、将来を見据えた「貯蓄」や「生活費」のためにアルバイトを行っている学生が多く存在することが示された。また、アルバイト時にトラブルに巻き込まれた学生は減少傾向にあり、その際の相談部署への認知度は高まっていた。しかしながら、相談部署への認知度と実際に相談し解決したかなどについては、不明確なため、アルバイト時にトラブルが発生した場合、悩んでいる学生も多く存在すると思われる。したがって、学内で相談しやすい体制づくりをより推進していくことが望まれる。

グラフ Q: 主な従事時間は何時頃ですか。



グラフ Q: トラブルになった場合、労働基準監督署に相談窓口があることを知っていますか。

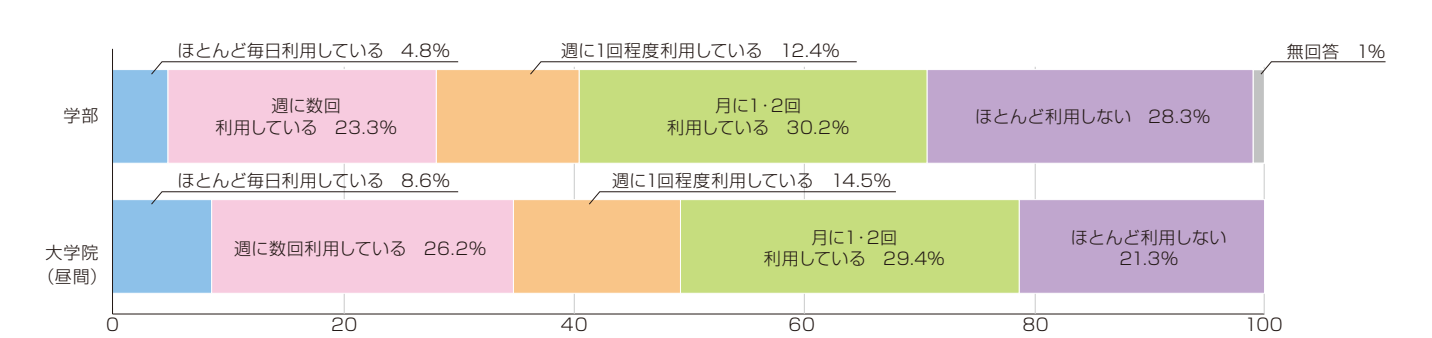


附属図書館についての調査結果にも、2020 年始めより打ち続く新型コロナ禍の影響が強く認められる。そのことを中心に、以下、前回 2019 年度・前々回 2017 年度との比較を通して窺える特徴的な点を指摘・分析してみたい。

コロナ禍の影響を端的に示すのが、最初の調査項目「附属図書館をどの程度利用していますか」である。とくに「ほとんど利用しない」割合(全体 25.9%)は、前回(同 7.7%)・前々回(同 7.5%)とは桁違いの驚くべき高い数値であった。それと同様の結果は、滞在時間・利用目的・利用スペースに関する項目にも認められる。滞在時間では、従前の割合に比べて「30 分以内」「30 分～1 時間程度」が増加する一方、「1～2 時間程度」「2～3 時間程度」「4 時間以上」が減少した。利用目的では、「一人で自習」「時間つぶし」が増加する一方で、「グループで学習」「PC の利用」が減少した。「グループで学習」の減少は、近年構築された開かれた空間としての機能が、コロナ禍によって発揮されずに終わったことを意味する。その証拠に、「どのスペースを一番利用しますか」という項目において、「2 階の閲覧席」(全体 43.1%)と「PAO (オープンテラスを含む)」(同 38.7%)の順序が、前回・前々回とは逆転することとなった。具体的には、学部はまだ「PAO」が優位だが、それでも「閲覧席」との差は 10%と縮まり、修士課程ではそれが逆転し、元来「閲覧席」優位の専門職課程は「PAO」との差がさらに広がった。

そのような結果は、図書館本来の姿に戻ったものとも解される。関連して見逃せないのは、「附属図書館についてご意見があればお書き下さい」という項目の記述に、入館バーコードや空調への不満のほかに、館内に流れている音楽が要らない、音量が大きすぎて思考できない、といった批判が少なからずあることだ。対話・議論を旨とする開かれた空間性と読書・自習を旨とする静謐な空間性との間に、どう折り合いをつけるのか、コロナ禍の影響は改めて根本的な問題を投げかけている。

グラフ Q: 附属図書館をどの程度利用していますか。

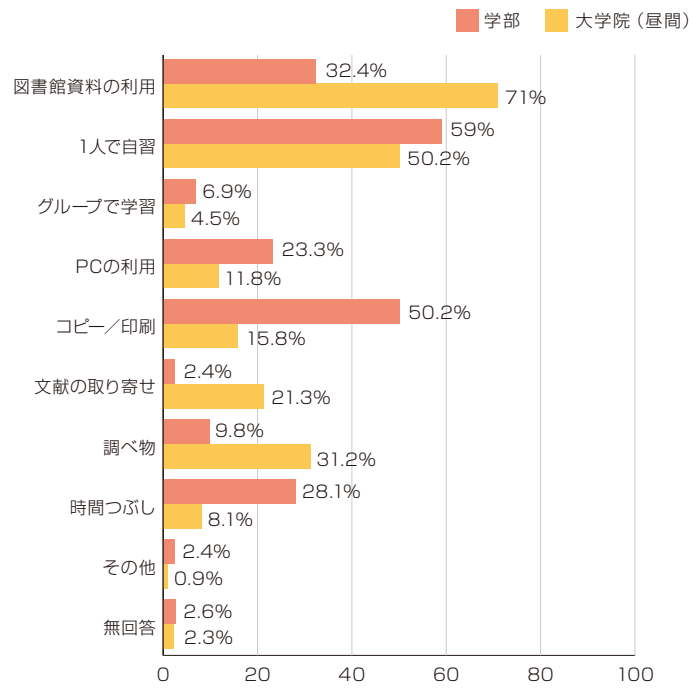


今回、図書館利用そのものが後退したことは見た通りだが、そのうち「ほとんど毎日利用している」割合(全体 6.15%)が、前回(同 9.85%)・前々回(同 8.45%)をかなり下回ったものの、なお一定数の恒常的利用のある実態を示している点にも注意したい。大学の寄宿舎や近辺に居住する学部生・院生にとって、図書館は生活の場でもある。その点は大学院(夜間)の図書室も同様で、「授業がある日にキャンパス内の図書室を利用しますか」という項目では、「全く利用しない」割合が 22.4%と、前回(8.1%)・前々回(9.3%)より極めて高い数値を示した反面、「ほとんど毎回利用している」割合が 20.7%と、前回(16.1%)・前々回(6.7%)よりもむしろ上昇している。夜間キャンパスに通う院生にとって、図書室は日常的な学習空間にほかならない。その意味でも、「キャンパス内の図書室に望むものは何ですか」という項目で「資料(図書・雑誌)を充実させてほしい」割合(夜間全体 69.0%)が、前回(同 62.7%)・前々回(同 53.2%)より増加している状況は、早急に対応すべき課題を提起して重要であろう。

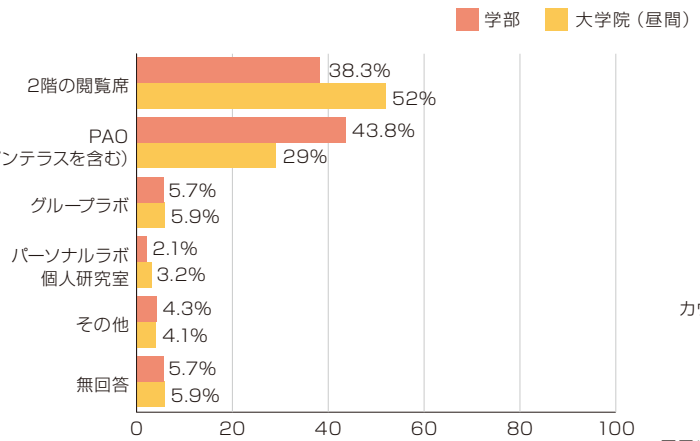
教材文化資料館に関しても、利用度が著しく低下したのはやむを得ないが、「あることを知らない」割合(全体 21.5%)が、前回(同 11.4%)・前々回(同 8.2%)を大幅に上回ったのは衝撃的である。そのことは、大学院(夜間)の「加東キャンパスの図書資料等の取り寄せサービス」の項目で「サービスがあるのを知らない」割合が、15.5%(前回 6.5%・前々回 9.3%)に増えたことなどと相俟って、宣伝・案内等のさらなる強化の必要性を喚起する。教材文化資料館の今年度後半の企画「おしえて！ オノマトベ」は好評であったようだが、その期間中に実施されたトークイベントの動画公開のような広範な宣伝活動が、今後一層求められることであろう。

以上、コロナ禍の影響による特徴を中心に分析を試みた。もっかアフター・コロナに向けた新たな改革プランも策定されつつあるが、上記に垣間見える図書館本来の姿もまた軽視すべきではない。

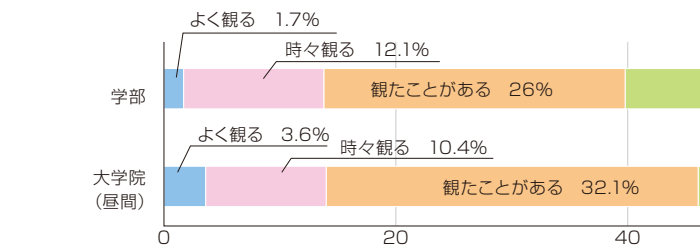
Q：附属図書館をどのように利用していますか。
(3つまで回答可)



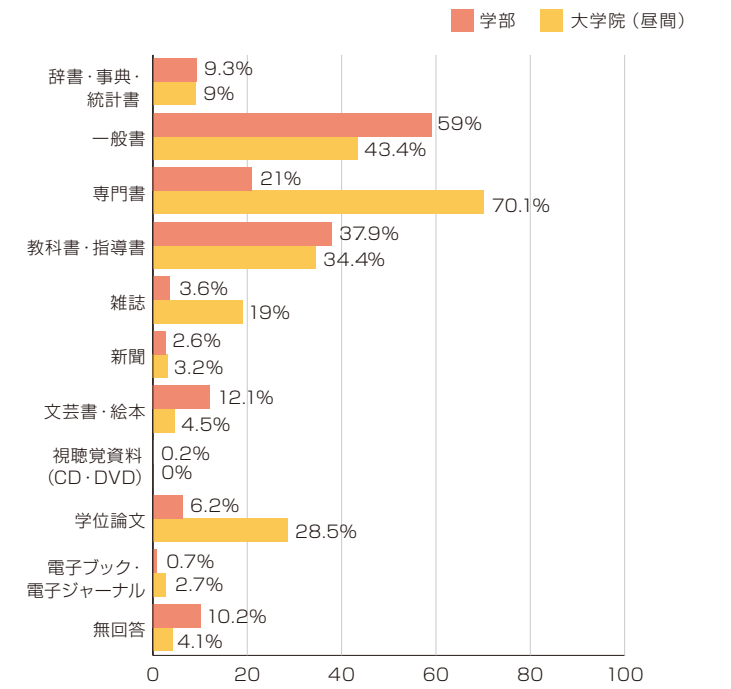
Q：附属図書館のどのスペースを利用しますか。



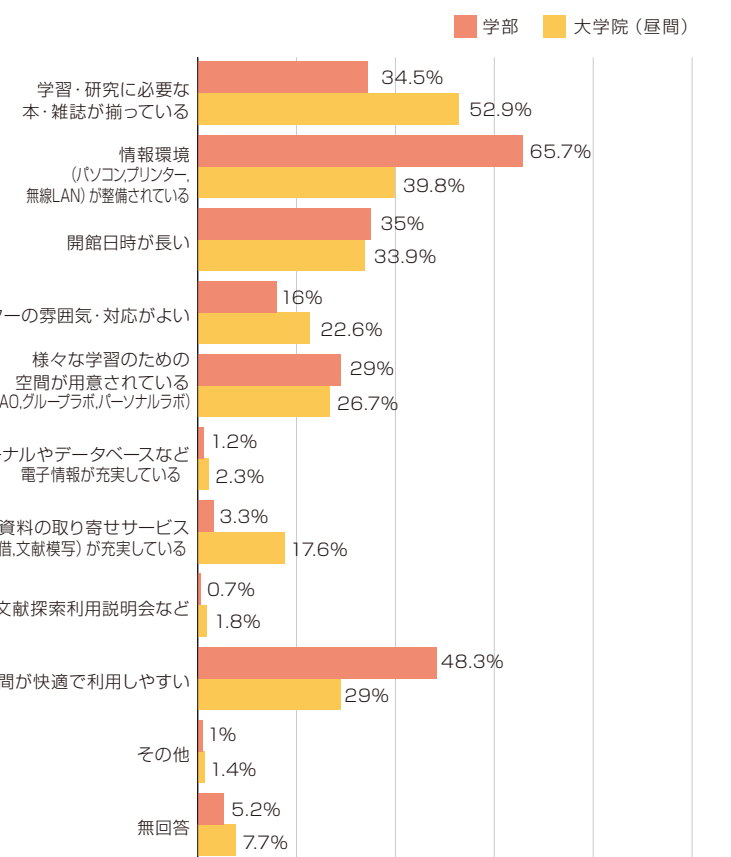
Q：教材文化資料館の展示をどの程度観ていますか。



Q：附属図書館でどのような資料をよく利用しますか。
(4つまで回答可)



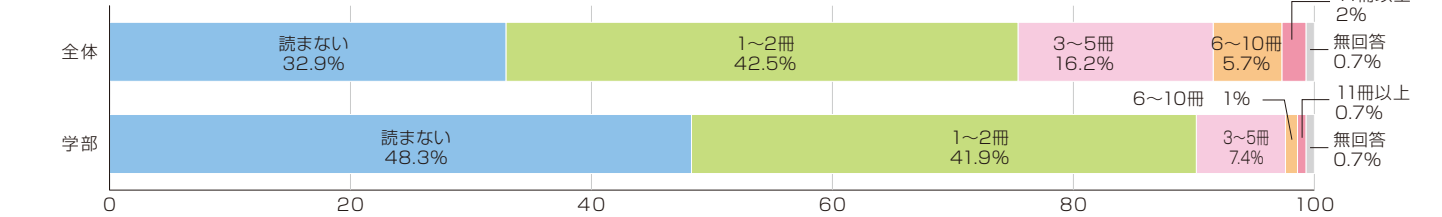
Q：附属図書館で満足しているものを選んでください。
(4つまで回答可)



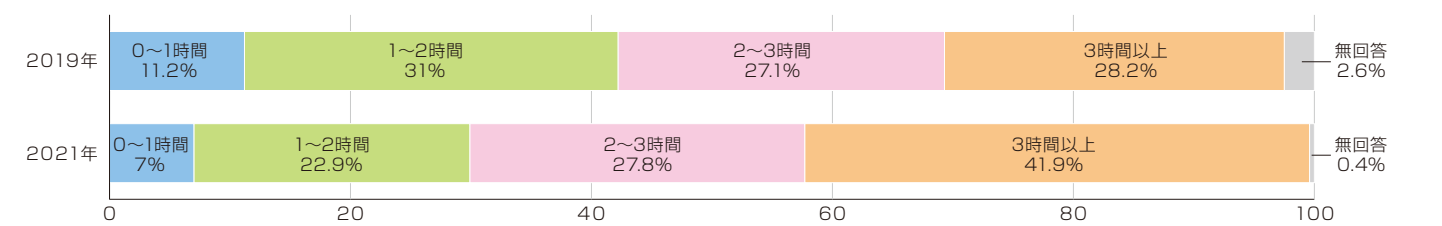
1ヶ月における読書量は前回調査同様、学部生・大学院生全体で32.9% とほぼ3人に1人が「全く本を読まない」が、学部生については、「全く本を読まない」は48.3% と前回(58.7%)よりもやや改善されている。また、スマホやネット視聴時間については前々回、前回調査に比べてさらにアップしている(3時間以上が全体では41.9%、学

部生は51.9%)。コロナ禍により自宅で過ごす時間がかかなり多くなってしまったことが関係していると捉えられる。別質問では「TV 視聴」についても問うているが、約6割がほぼ見ない結果であり、まさに学生はネットと共に暮らしていると言ってよい。

Q：1ヶ月平均して、何冊の本を読みますか。(雑誌は除く)



Q：1日のスマートフォンまたはインターネット視聴時間は何時間ですか。

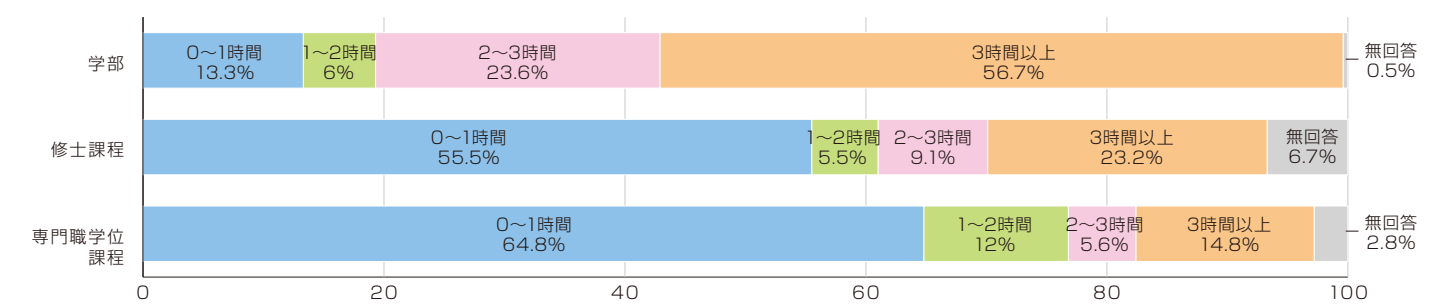


学生生活に欠かせない「アルバイト」

1日の生活時間に占めるアルバイトの時間は、コロナにより飲食等のアルバイトが減ったこともあってか、3時間以上の割合が約10%減少し、その分が0～1時間の割合の増加につながっている。とはいえ、

平均して1日に3時間以上のアルバイトをしている学生が6割近くいることから、現在の学生(特に学部生)にとってアルバイトの比重はますます大きくなっていると言える。

Q：1日のアルバイト時間は何時間ですか。





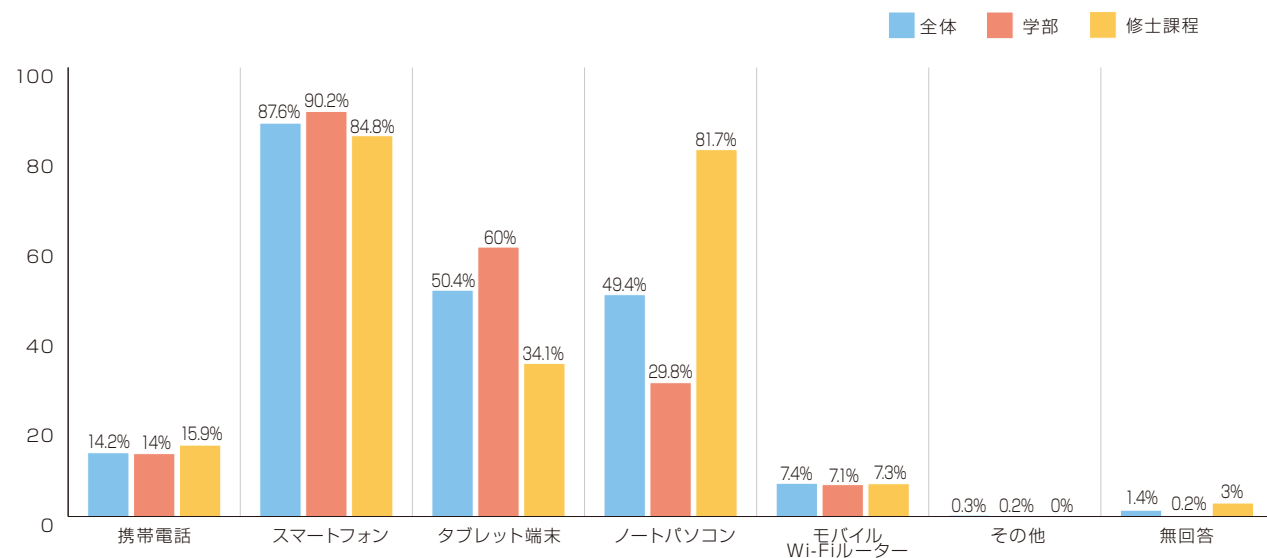
「タブレット」の所持が浸透

「所持している通信端末」については全体として「タブレット」が大きく伸びている(前回 16.3%→今回 50.4%)。その理由はここ数年、新入学部生にはタブレット購入を必須としていることである(学部生の数値は 90.2%)。現時点では大学院生は「ノートパソコン」が主要であるものの、学部生の使用端末は「タブレット」であることを前提に、大学として様々な活動を考えていく必要があるだろう。

また、学内で空き時間を過ごす場所、あるいは自主学習を行う場と

しては、全体的に「附属図書館」の割合が高いことには変わりはないが、特に学部生では「共通講義棟」の割合がアップしている。対面での授業に変わってオンライン授業が多かったこの 2 年、広めの共通講義棟で Wi-Fi を利用していることが窺える。関連して「十分に場所を確保できているか」という質問もなされているが、「十分確保できている」「確保できている」が 8 割を超えており、学内での Wi-Fi 環境等の整備はかなり進んだと捉えてよいだろう。

グラフ Q: 大学内で、電話、メール、ネット閲覧等を行うために、どのような通信端末を所持していますか。(複数回答可)

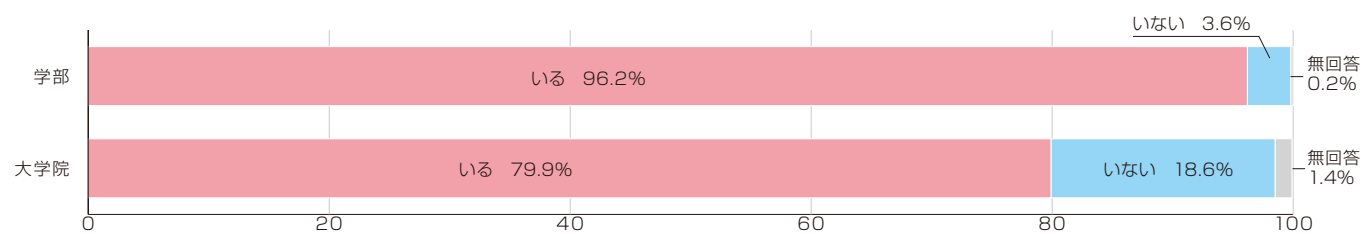


友人関係は予想に反して!?うれしい結果

今回の調査では、コロナ禍により「友人関係が十分に作れているか」が心配であったが、「現在、学内に親しい友人がいますか」という質問には全体として約 9 割が「いる」と回答していた。ただ、学部生が 96.2%であるのに対して、大学院生は 79.9% (「いない」が 18.6%) と前回調査よりも 1 割ほど増えている。大学院はオンライン中心の授

業が多くなったために、対面での関係作りがあまりできなかったことが少なからず影響していると思われる。大学院の目的は「充実した学生生活を送る」ことが第一義ではないものの、仲間とのやり取りは充実した研究活動にもつながるため、今後注視していかねばならないところであろう。

グラフ Q: 現在、学内に親しい友だちがいますか。

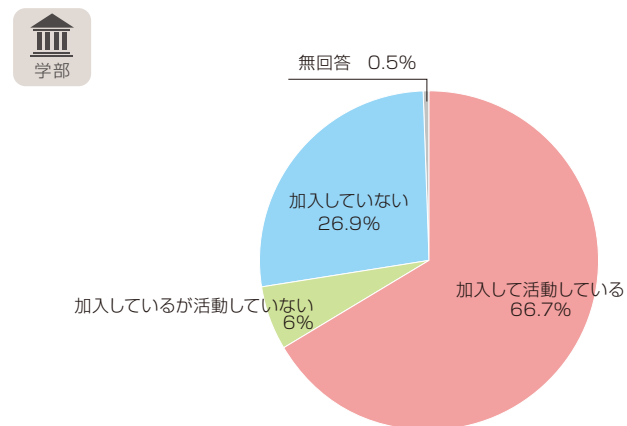


「課外活動団体への加入」については、2 年前に比べて若干高い数値 (66.7%) であった。コロナ禍で十分な活動はできなかったかもしれないが、学生たちは工夫しながら勧誘を進め、例年程度の加入率になったものと推察される。また、加入の割合であるが、「体育系」が 75.4%と 7 ポイントアップした分、「文化・芸術系」の割合が減少している。

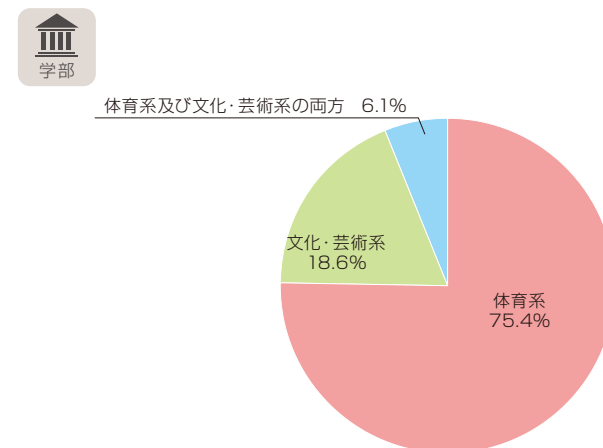
また、「加入動機」については「友人がほしい」が大幅にアップしてい

る一方(前回 42.6%→今回 57.1%)、「活動していない。または加入していない」理由は、2 年前とかなり様相が異なっている。「健康上の理由(おそらくコロナ感染への心配等)」を挙げるものが 4 割を超えているとともに、「経済的負担」や「入りたい団体がない」という意見が 3 分の 1 程度存在している。ここ数年の自宅生が多くなったこと、そして今回のコロナによって本学の課外活動はそのあり方が問われていると言えよう。

グラフ Q: 課外活動団体に加入していますか。

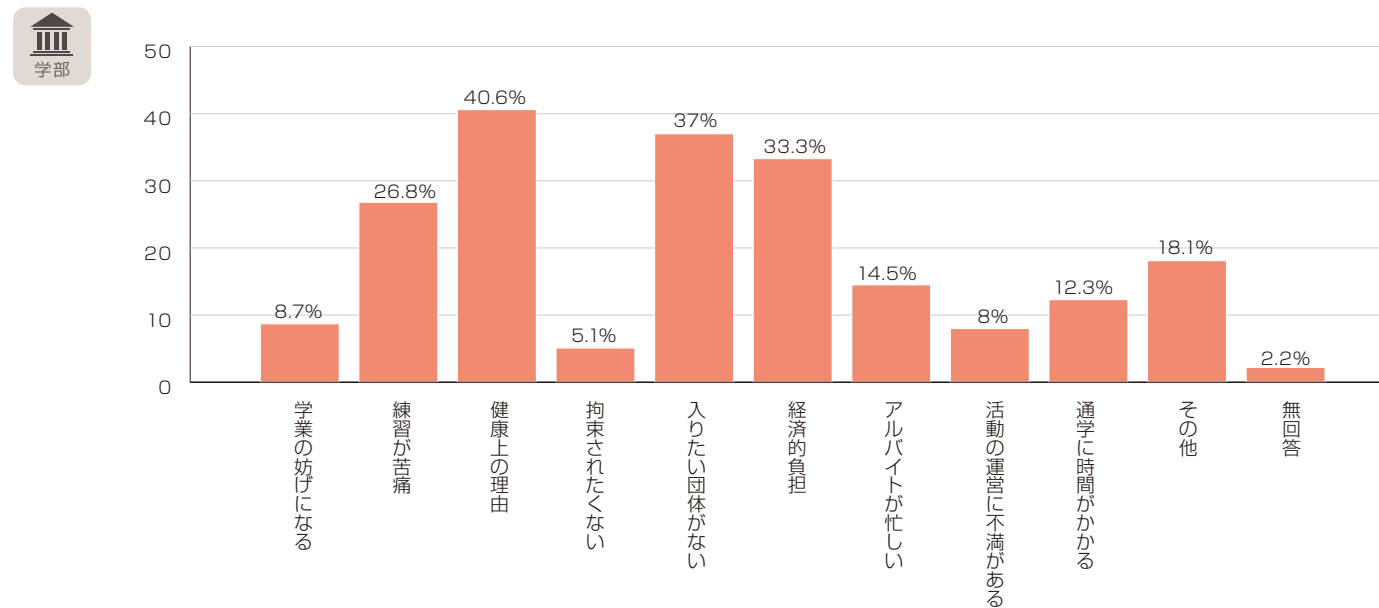


グラフ Q: どのような課外活動団体に加入していますか。



Q: 課外活動していない、または加入していない主な理由は何ですか。「加入しているが活動していない」「加入していない」と回答した者のみに限定。5 つまで回答可

グラフ



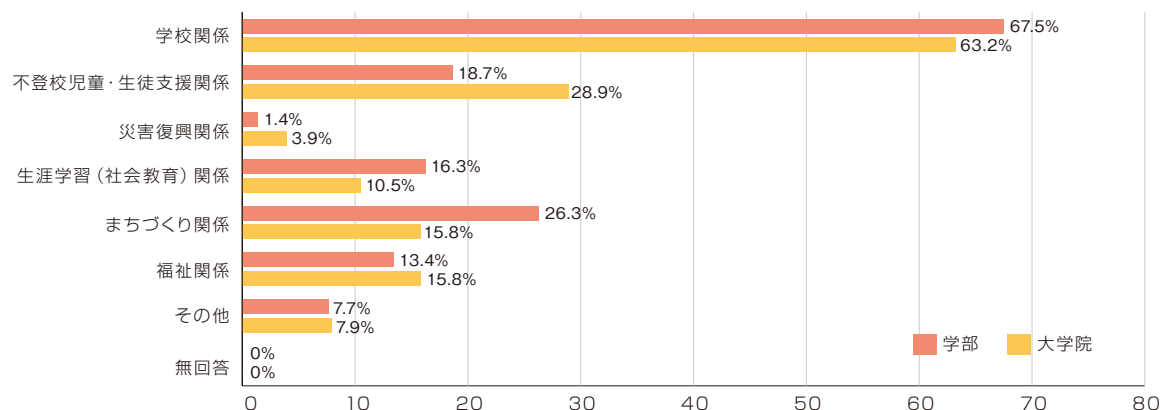


ボランティアはコロナ禍の影響を受けて

「ボランティア活動への参加の有無」については、コロナにより受け入れ先の活動自体が制限・中止となったことが結果として現れ、学部では「ある」と「ない」がほぼ半々となった(前回は、60%と36%)。ま

た、活動内容については、「生涯学習関係」や「福祉関係」の受け入れが少なくなったことが影響したため、それぞれ数%低下していたが、大きな変化は見られなかった。

グラフ Q: ボランティア活動の内容はどのようなものですか。



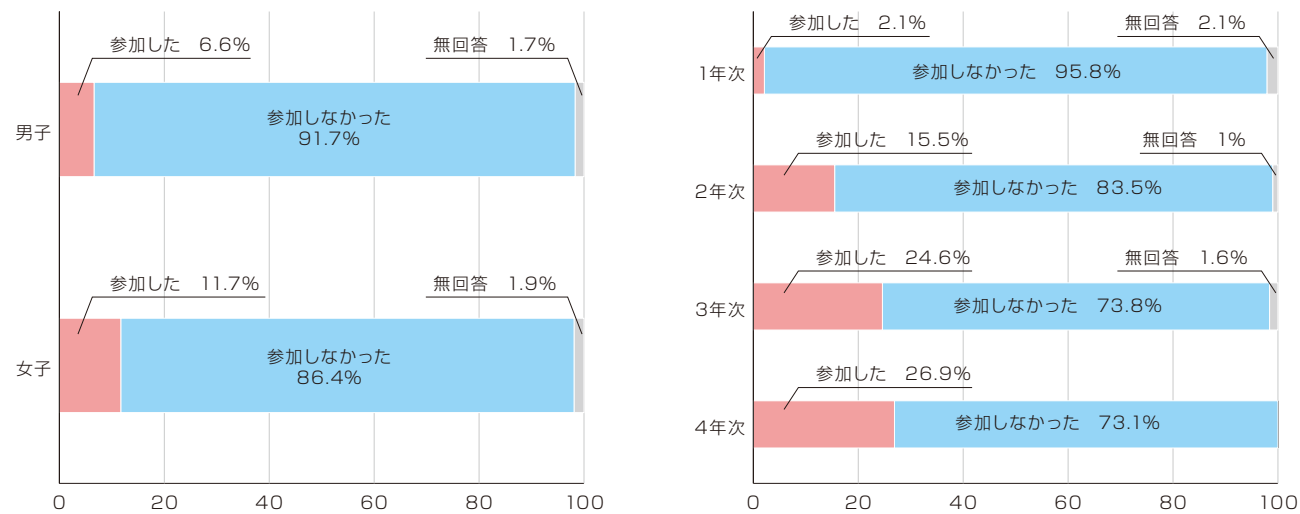
大学祭(嬉望祭)について

「大学祭への参加」については、今回の調査が10月であったため、1年生はその経験がなく実質的に対象外にすべきである。2年生以上については「昨年行われた大学祭」がオンライン開催であったため、参加率がこれまで以上に低いが、仕方がないところである。さらに、今年度の大学祭は調査後の12月に何とか対面で実施されたが学内限定で

あった。その点においては、コロナ禍での大学祭を従来行われてきたものと単純に比較することはできない。

ただ、ここ数年の傾向として学部生の参加率は低くなっていることからすれば、大学祭が40回を経過した今、大学としてもそのあり方を考え直さなければならない時期に来ていると思われる。

グラフ Q: 昨年行われた大学祭(嬉望祭)に参加しましたか。



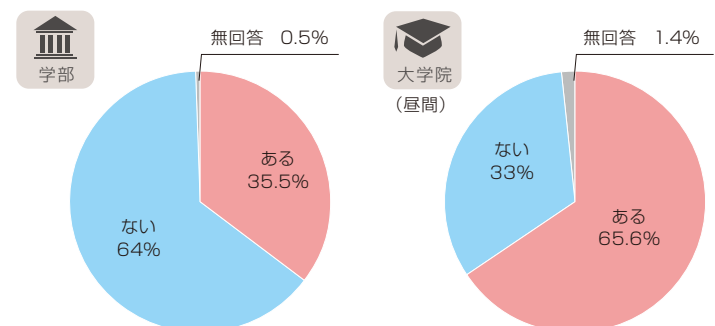
諸外国への関心が高く、多様な国際交流が期待される

海外への渡航経験は、2019年度調査(53.1%)の時よりも減少している(45.9%)。大学院専門職学位課程学生の7割近くは、渡航経験を有する。渡航回数1回の割合は、他の学生に比べ、学部生の変化(増加傾向)が大きい。渡航目的は、観光が全体の75%ほどにとどまる。それ以外の語学研修、留学、ボランティア活動については、それほど大きな変化は見られない。

本学の留学生との交流については、全体では「ある」と回答した割合が前回(39.5%)に比べ減少している(24.3%)。その一方で、「交流はないが興味・関心はある」は、増加傾向にある(今回: 21.7%、前回: 16.2%)。学部・大学院(博士課程を除く)別に見れば、本学の留学生との交流経験は、修士課程が52.6%と高いが、他は、学部(19.3%)、専門職学位課程(14.3%)にとどまる。

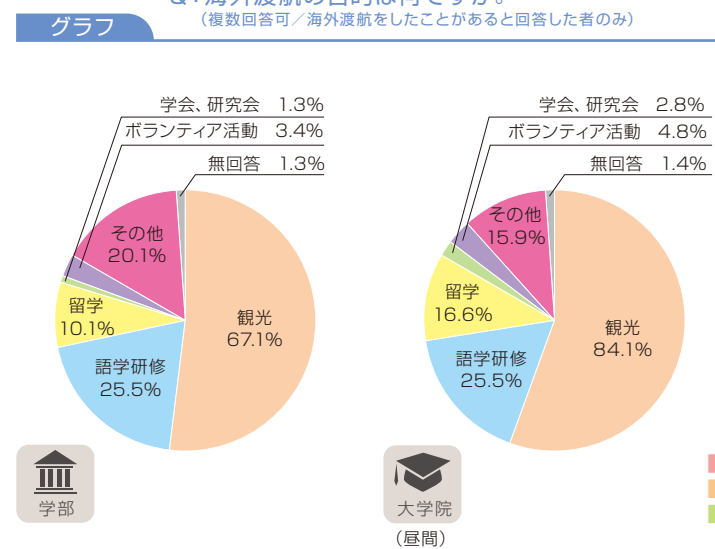
派遣留学、海外短期(語学・異文化体験)研修については、双方に行ってみたい、あるいはどちらかに行ってみたいと回答した割合の合計が前回同様に5割を超えている。その中でも、専門職学位課程(女子学生)の割合は、前回よりも高く、65.2%に達している。派遣留学先として関心のある国は、アメリカ(54.4%)、オーストラリア

グラフ Q: 海外渡航をしたことがありますか。



Q: 海外渡航の目的は何ですか。

(複数回答可/海外渡航をしたことがあると回答した者のみ)

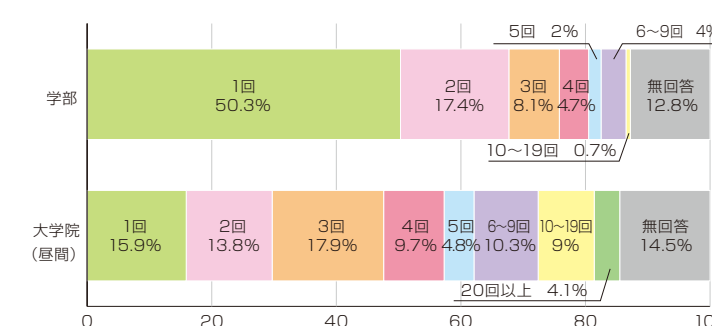


(44.6%)、イギリス(33.2%)カナダ(28.9%)と英語圏の国の割合が高いが、ドイツ(22.2%)、スイス(16.1%)、韓国(16.1%)も関心が寄せられている。海外短期(語学・異文化体験)研修先としても同じくアメリカ、オーストラリア、イギリス、カナダが並び、英語圏以外でも同じ国名が続いた。なお、学部生の場合は、韓国の割合がスイスよりも高く、派遣留学先、あるいは海外短期研修先として、関心の違いが見られる。

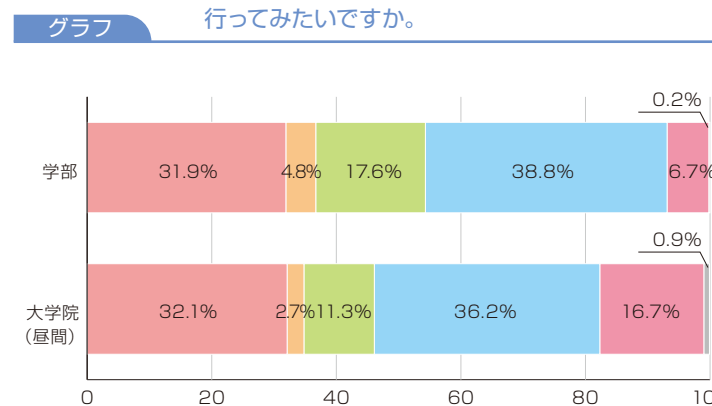
今回のアンケート結果から、渡航経験の増加傾向もあり、派遣留学や海外短期(語学・異文化体験)研修にも関心があり、国際交流の理解も示していると言える。しかしながら、本学の留学生との交流においては、興味・関心はあるものの、活性化されているとはいえない。

本学の学生全体に、国際交流の意識を一層高め、より確かなものにしていくためには、関心の高い英語圏の国々からの留学生の受け入れや留学生の出身国とオンラインによる協働学習、文化交流イベントの開催なども視野に入れつつ、学内留学生との多様な交流機会を拡充していくことが大切である。

グラフ Q: 海外渡航の回数(海外渡航をしたことがあると回答した者のみ)

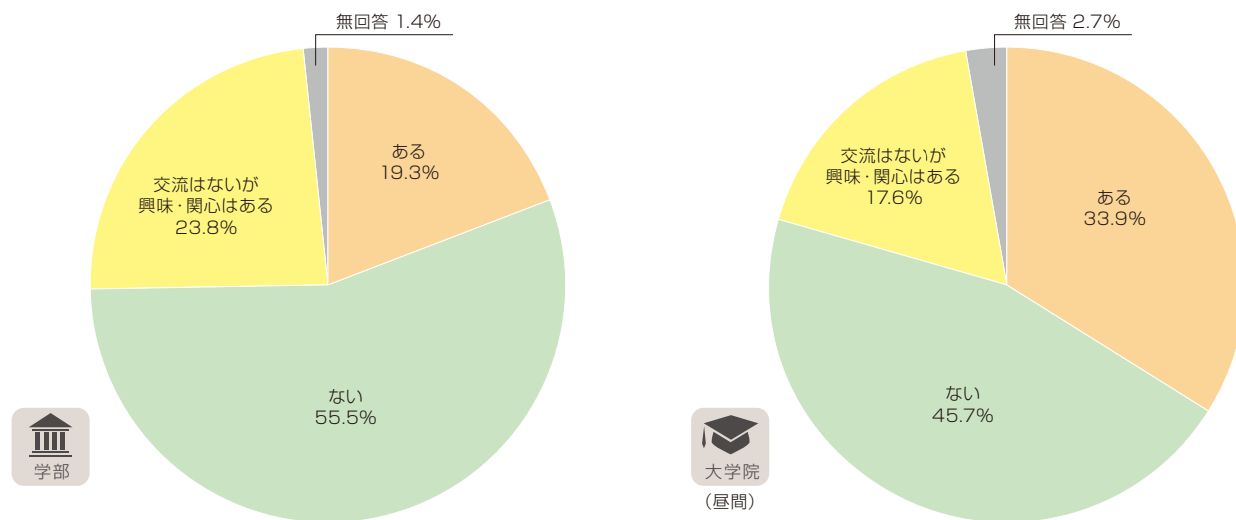


Q: 派遣留学、海外短期(語学・異文化体験)研修に行きたいですか。

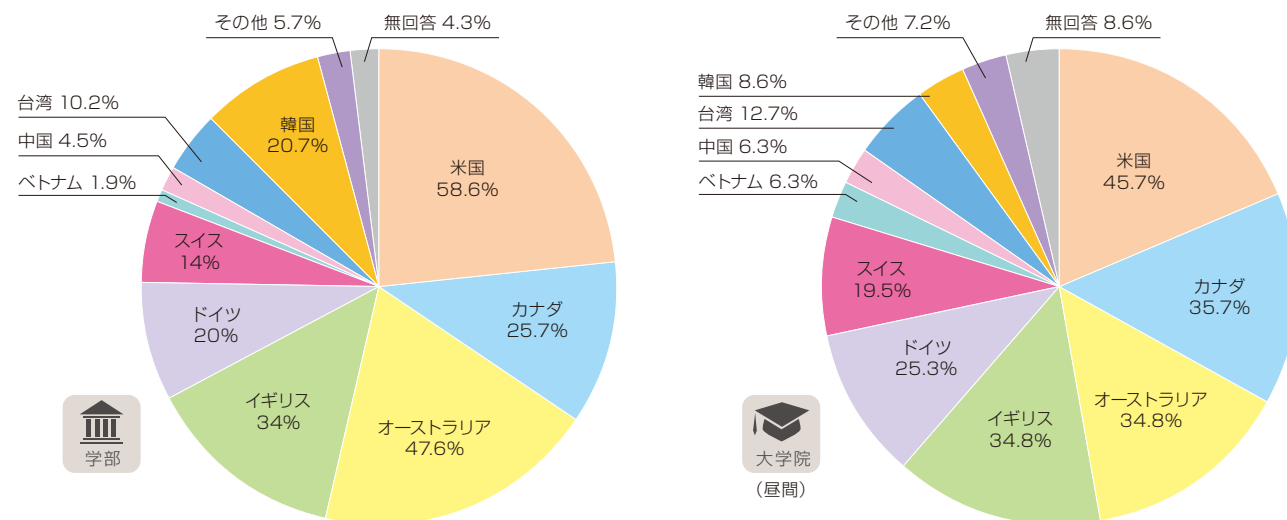


派遣留学、海外短期研修とも行ってみたい
派遣留学行ってみたい
海外短期研修とも行ってみたい
どちらか興味があるので行かない
派遣留学行ってみたい
海外短期研修とも行ってみたい
どちらも関心があるので行かない
派遣留学行ってみたい
海外短期研修とも行ってみたい
無回答

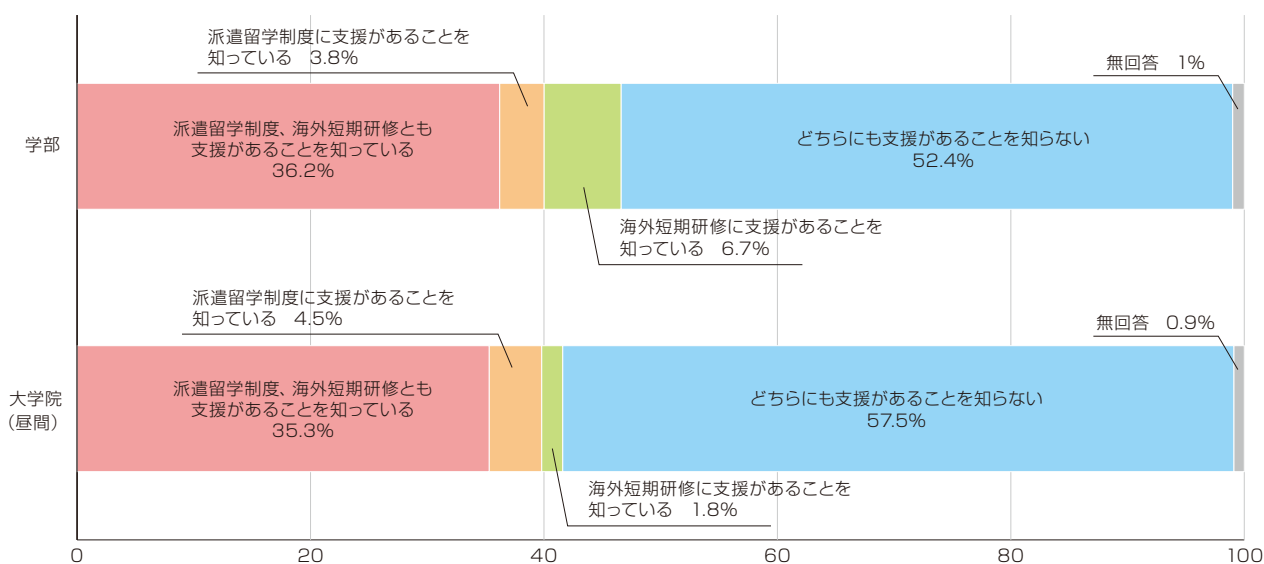
グラフ Q：本学の留学生との交流はありますか。（留学生は日本人学生との交流について回答）



グラフ Q：海外短期（語学、異文化体験）研修に行くとしたら、どの国・地域に関心がありますか。



グラフ Q：本学が行っている派遣留学制度、海外短期（語学、異文化体験）研修に大学が経済的な支援をしていることを知っていますか。

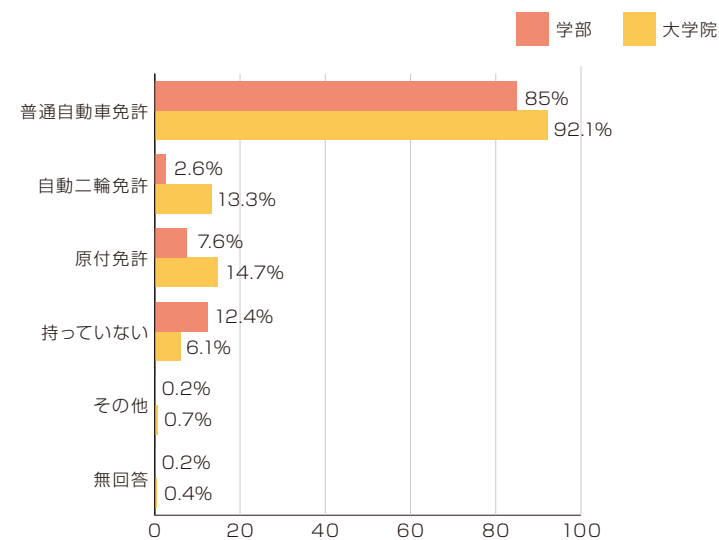


自動車等の運転免許については、学生全体の9割近くが所有している。所有していない学部生の割合は、1割強を占める。1年間の交通事故との遭遇は、自動車等の運転免許所有者全体の6.7%にとどまっている。また、学内（学生寄宿舎を含む）での盗難・車上荒らし・居室への侵入等の被害については、学生全体の1.1%であった。前回（2019年度3.2%）、前々回（2017年度6.0%）と比較すると確実に減少していることがわかる。学内の治安について不安に

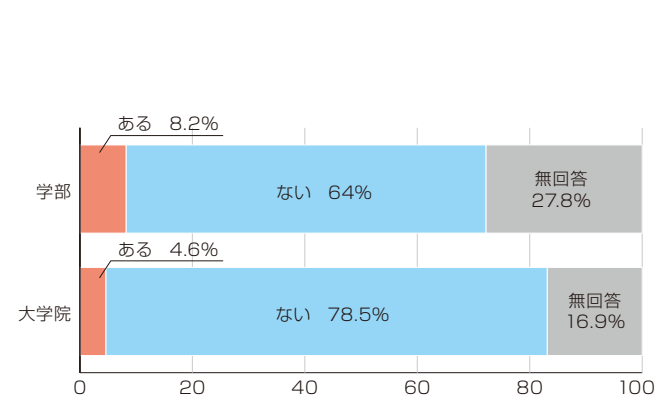
思っている割合は11.5%で、前回の39.0%から大きく減少している。

今回のアンケート結果から、交通安全については、「事故ゼロ」をめざして、今後も緩めることなく、安全への意識を継続していく必要がある。学内の治安等においても、減少傾向を示しているものの、常に注意喚起をし、学生への周知徹底を図ることが必要である。

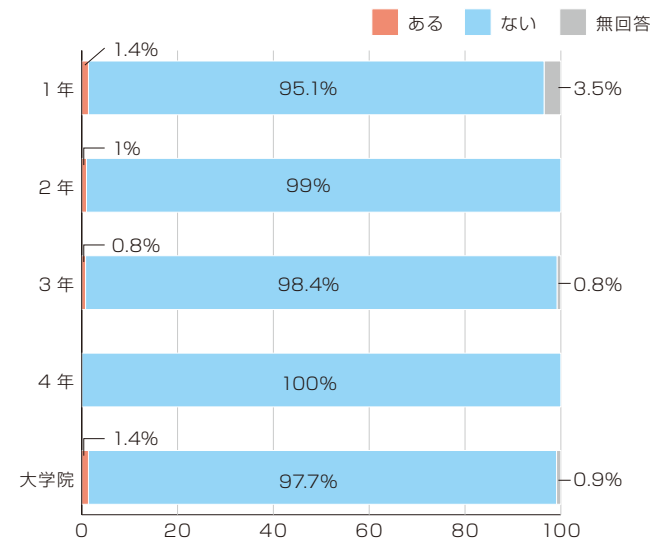
グラフ Q：自動車等の運転免許を持っていますか。（複数回答可）



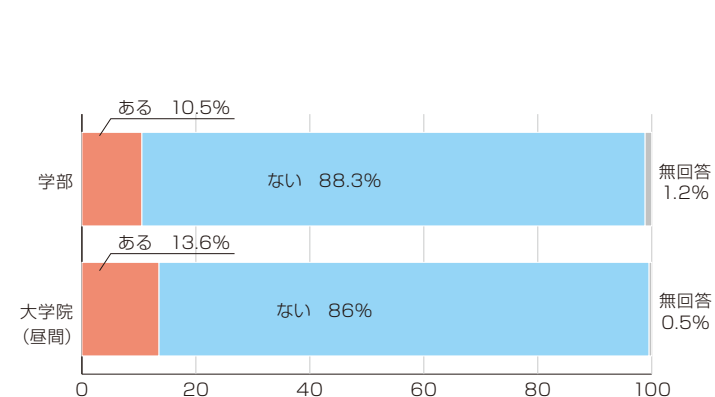
グラフ Q：この1年間（1次生は入学後）で、自動車・バイク等を運転していて交通事故に遭ったことがありますか。



グラフ Q：学内（学生寄宿舎を含む）で、盗難・車上荒らし・居室への侵入等の被害に遭ったことがありますか。



グラフ Q：学内の治安について不安に思ったことはありますか。





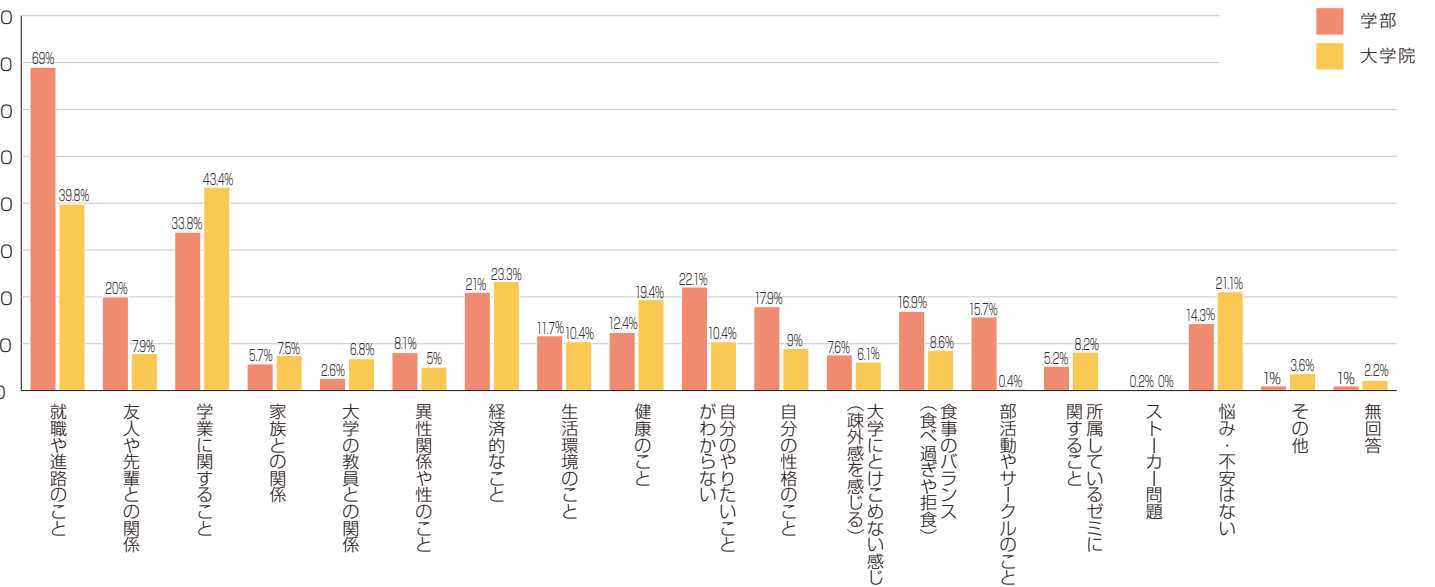
「どのようなことに悩み・不安を感じていますか」という質問に対して、年次比較を行った結果、大きな変化は見られなかった。主な悩み・不安として挙げられていたのは、「就職や進路のこと：57.4%（2021年度）」、「学業に関すること：37.6%（2021年度）」、「経済的なこと：21.9%（2021年度）」であった。

「悩み・不安が生じた場合、どう対処しますか」という質問に対して、「父母に相談する（2017年度：35.9%、2019年度：40.7%、2021年度：45.1%）」・「友人・先輩に相談する（2017年度：58.2%、2019年度：60.8%、2021年度：64.9%）」が若干で

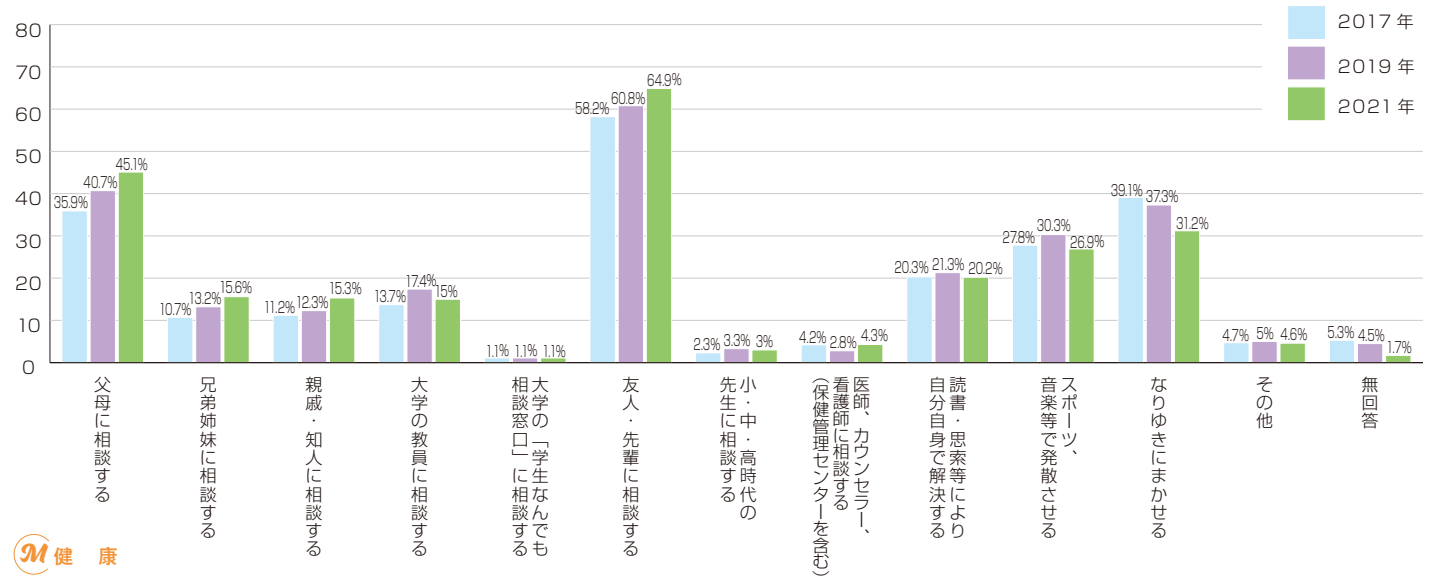
はあるが、年々増加傾向を示している。一方で、「なりゆきにまかせる（2017年度：39.1%、2019年度：37.3%、2021年度：31.2%）」は減少傾向を示した。

以上の結果から、教育大学が故に、概ね進路を決めて入学する学生が大半だと思われるが、日々の学びや実習等を通して、将来の進路をどのように選択すべきか悩む学生が一定数存在すると思われる。しかしながら、そのような事象が生じた場合、相談できる他者が存在することで、「なりゆき」に任せた解決が減少していると考えられるため、今後は大学関係者等も含め、さらに学内で相談しやすい体制づくりを推進していくことが望まれる。

グラフ Q：どのようなことに悩み・不安を感じていますか。（複数回答可）（パーセント、少数回答は除く）



グラフ Q：悩み・不安が生じた場合、どう対処しますか。（5つまで回答可）



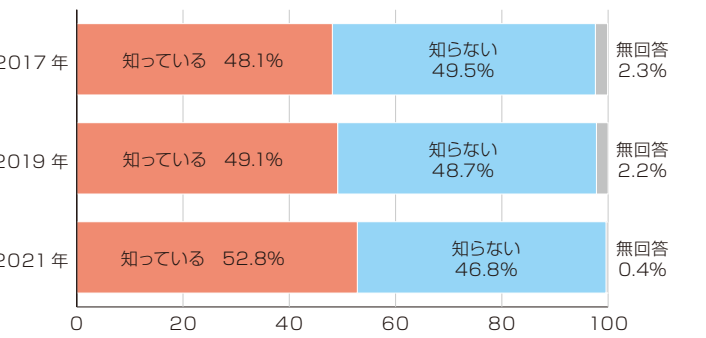
「自身が学内でハラスメント体験したことがある」という質問に対して、今年度、「ある」と回答した割合は 2.9% であった。この結果は、2017 年度(5.0%)、2019 年度(5.5%)と比較して、減少傾向を示している。さらに、「学内で他学生がハラスメントを受けているのを見聞きしたことがある」という質問に対して、今年度、「ある」と回答した割合は、4.3% であり、前述と同様に減少傾向を示した（2017 年度：9.2%、2019 年度：6.6%）。

「誰かにハラスメントについて相談したか」という質問に対して、「相談した」と回答した割合は 60% であった。「相談相手」については、「友人・知人(66.7%)」が最も高く、次は「大学の教職員(41.7%)」、

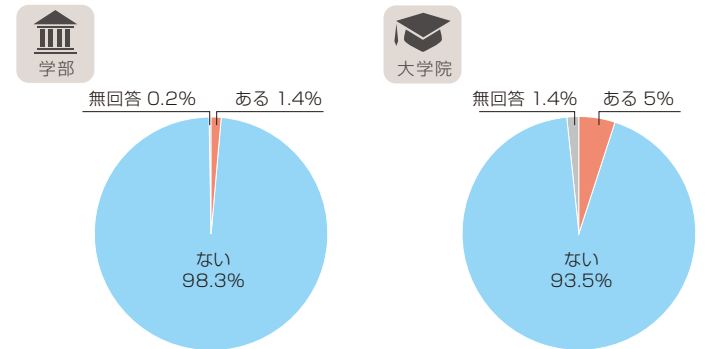
「家族(16.7%)」であった。一方で、「相談しなかった」と回答した者の「相手に対して直接抗議をしなかった、または誰かに相談しなかった理由」は、「不利な立場に追い込まれそうだから(29.4%)」、「何の解決策にもならないから(29.4%)」と同割合であった（無回答を除く）。

以上の結果から、自己のハラスメント体験及び他者のハラスメントについて見聞きしていることは減少しているが、少なからずハラスメントに悩んでいる学生や、相談できない学生がいることも事実である。したがって、ハラスメント相談窓口や、ハラスメントに関する知識の伝達を大学として一層、行っていくことが求められる。

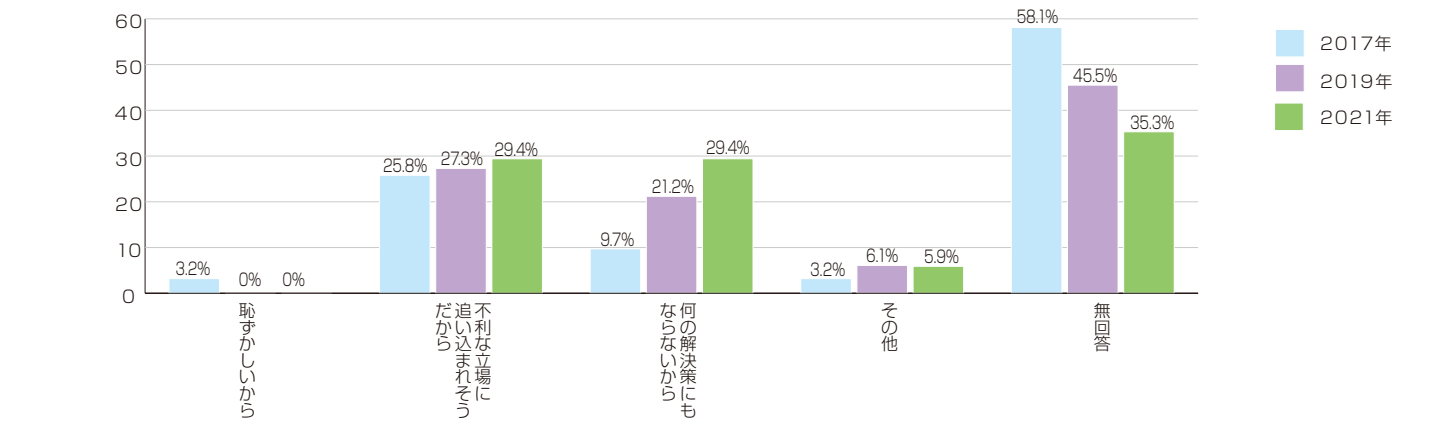
グラフ Q：本学にハラスメントの相談窓口があり、相談員が置かれていることや学外の相談機関があることを知っていますか。



グラフ Q：実際にあなた自身がこの学内でハラスメントを体験したことがありますか。



グラフ Q：相手に対して直接抗議をしなかった、または誰かに相談しなかった理由は何ですか。

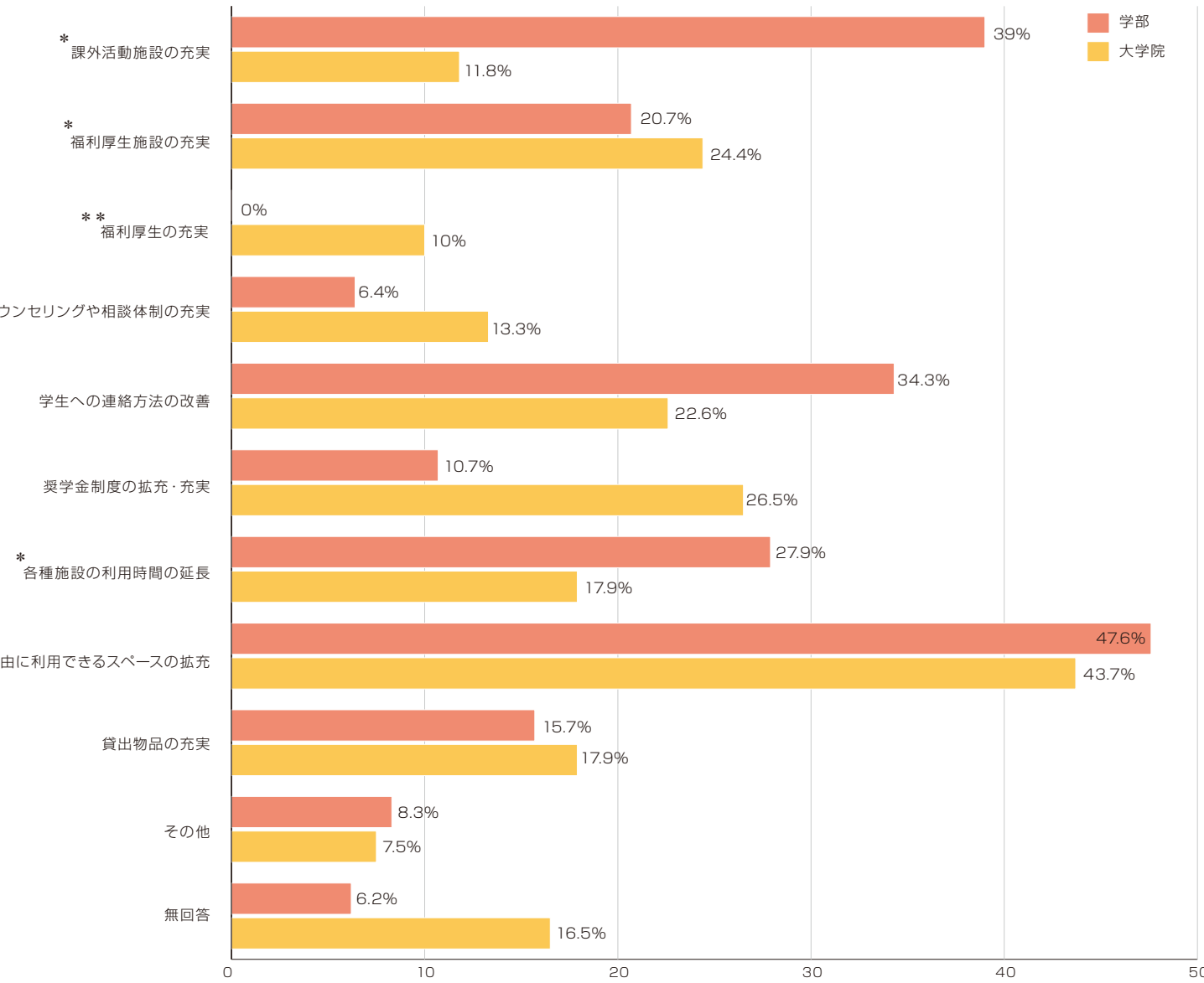




「大学に特に要望することや期待すること」について、複数回答で回答のあったものを集計したところ、学部生については、「自由に利用できるスペースの拡充」（48％）、「課外活動施設の充実」（39％）、「学生への連絡方法の改善」（34％）、「各種施設の利用時間の延長」（28％）、「福利厚生施設の充実」（21％）の順である。また、大学院

生については、「自由に利用できるスペースの拡充」（44％）、「奨学金制度の拡充・充実」（27％）、「福利厚生施設の充実」（24％）、「学生への連絡方法の改善」（23％）、「各種施設の利用時間の延長」と「貸出物品の充実」が同率（18％）の順である。

グラフ Q：大学に特に要望することや期待することは何ですか。（5つまで回答可） 大学院については、*は（昼間）のみ、**は（夜間）のみ回答



学部生

学部生の自由記述による回答を見ると、
第1位の「自由に利用できるスペースの拡充」については、

- オンライン授業を受ける場所で、ミュートを外して自由に意見を言いたい場所がほしい。
- 友達と話しながら時間をつぶせるところがほしい。外のベンチは汚れがひどく、座ろうと思えない。
- 朝早くから夜遅くまで、勉強できるスペースがほしい。
- 自由に教室を使わせてほしい。

などが挙げられている。

大学の対応

学生の皆さんが、自学自習、グループ学習、歓談等自由に利用できて、飲食可能なスペースとして現在、総合研究棟1階学生ホール(利用可能時間：平日の 8:30 ～ 19:00、HUTE_Wi-Fi、eduroam、電源コンセント整備)と学生会館のうれしの食堂(利用可能時間：平日 9:00 ～ 21:00、土日祝 9:00 ～ 17:00、HUTE_Wi-Fi、eduroam、Free_Wi-Fi 整備)を設けています。この 2 か所は、一人用カウンター席のほかリラックスできる空間であるとともに自由に利用できる空間としています。

また、図書館では飲料の自動販売機を設置し、PAO、オープンテラスのほか、ライブラリーホールをリラックスして勉強に取り組めるよう配慮しています。

このほか、自主的な学びのための共用スペースとしてラーニングcommonsを総合研究棟(オープンセミナールーム、キャリアセンター)、学生会館(アクティブラーニングスタジオ等)、附属図書館(PAO、グループラボ3室)を整備しています。

所定の手続きをすれば、学生交流室、多目的ホールや共通講義棟の各教室を、マイクロティーチングや研究、グループ学習、就職対策などに活用していただけます。

第2位の「課外活動施設の充実」については、

- 複数の部活が使用する体育館は、頻繁に外の体育館をかりなければならないことが多いことから、体育館を新設するか、部の数を減らすかしてほしい。
- 体育館にエアコンの設置、電灯や自販機の増設をしてほしい。
- サッカー、ラグビー場の雑草の改善や、トイレが詰まって使えないので改善してほしい。
- テニスコートの整備や、日陰になるようにしてほしい。
- 陸上競技場の雑草、タータンの穴あきなど整備をしてほしい。

などが挙げられている。

大学の対応

課外活動施設については、今後も教育研究施設の整備計画や安全面に配慮しながら順次改善を進めていく予定です。令和 4年度は、体育施設及び周辺の除草作業について、業者による一斉の除草作業(年2回)を予定しています。

また、陸上競技場のトイレについては、改修に向けた作業が進められます。

第3位の「学生への連絡方法の改善」については、

- 連絡が、LiveCampus、Outlook、Teams などバラバラなので、統一してほしい。
- オンラインの課題の提出先などがバラバラで、シラバスにその旨を記載してほしい。
- 課題の出題状況が分かりにくいので、1つのフォーマットで統一してほしい。
- コロナに関する情報を、もう少しわかりやすい所にのせてほしい。

などが挙げられている。

大学の対応

新型コロナウイルス感染症への対応に関する情報は、兵庫教育大学の公式ホームページに情報を集約し、情報発信しています。

また、新たにクラウド型教育支援システム(manaba)を導入し、課題の出題、提出状況などの管理が容易になるよう改善されます。

第4位の「各種施設の利用時間の延長」については、

- 土日、祝日は、もう少し鍵を借りられる時間を早くしてほしい。
- 図書館、食堂の開館時間を延長してほしい。
- Yショップの営業時間を延長してほしい。

などが挙げられている。

大学の対応	本学の各種施設においては、学生の皆さんからの要望を考慮するとともに、利用状況、施設整備及び警備上の観点から総合的に判断して、現在の利用時間等を決定しているところです。Yショップの営業時間については、大学側からお願いをしてサービスの改善を図っていますが、本学の規模から利用人数が限られるため、採算性の問題で営業時間を延長するのは難しい状況にあります。
-------	--

第5位の「福利厚生施設の充実」については、

- 大学生協に入ってほしい。
- ゆうちょ銀行 ATM を再設置してほしい。
- 証明写真機を設置してほしい。

などが挙げられている。

大学の対応	生協については、大学の規模の関係で契約ができないため、現在の業者と契約をしています。 ゆうちょ銀行 ATM については、ATM 設置存続指標である年間の利用件数が、最低基準を満たさない状況が続いたため、株式会社ゆうちょ銀行により平成 30 年 9 月に撤去された経緯があり、再設置は難しい状況にあります。
-------	---

 大学院生

次は、大学院生の自由記述による回答を見てみると、

第1位の「自由に利用できるスペースの拡充」については、

- オンライン授業の際、ブレイクアウトルーム等で、声を出し、ディスカッションが必要な場合に利用できるスペースがほしい。
- 各コースにより、控え室や個人デスクがあったりなかったりと、いった差が大きいのので改善してほしい。
- 神戸ハーバーランドキャンパスは狭く、自由に使える部屋が少ないので改善してほしい。

などが挙げられている。

大学の対応	「自由に利用できるスペースの拡充」は学部学生の「大学に要望することや期待すること」の第 1 位でしたので、P24 の「大学の対応」をご覧ください。
-------	---

第2位の「奨学金制度の拡充・充実」については、

- 奨学金制度の基準緩和と拡充充実。
- 奨学金のサポートがもう少し家計によって使えるよう充実してほしい。

などが挙げられている。

大学の対応	本学独自の奨学金・研究助成金として「兵庫教育大学特例制度利用者奨学金」、「兵庫教育大学学生奨学金」、「海外留学支援特別奨学金」、「大学院同窓会研究助成金」、「兵庫教育大学学会発表奨励金」、「現職教員学生研究助成金」を設け、修学支援制度の充実を図り、高度な専門性と実践的指導力を有した人材育成を行っています。
-------	---

第3位の「福利厚生施設の充実」については、

- 日常必需品を販売するスーパーが欲しい。特に留学生には買い物はけっこう難しい。
- 食堂のメニューの充実をしてほしい。
- 土日や休日の講義の際、子どもを預けることができる施設があればありがたい。
- ゆうちょ銀行の ATM を復活してほしい。

などが挙げられている。

大学の対応	食堂のメニューについては、低価格の単品メニューや日替わりメニューの設置、地域特産フェアの開催など、学生の皆さんの満足度向上を目指し、サービスの向上を図っています。 「ゆうちょ銀行 ATM」は学部学生の「大学に要望することや期待すること」の第5位でしたので、P25 の「大学の対応」をご覧ください。
-------	---

第4位の「学生への連絡方法の改善」については、

- 授業連絡が、LiveCampus、Teams 等、バラバラなので一本化してほしい。
- オンラインか、対面か教員同士で連絡を取り合ってほしい。

などが挙げられている。

大学の対応	「学生への連絡方法の改善」は学部学生の「大学に要望することや期待すること」の第3位でしたので、P24 の「大学の対応」をご覧ください。
-------	---

第5位の「各種施設の利用時間の延長」と「貸出物品の充実」については、

- コンビニの閉店時間が早いので改善してほしい。
- 食堂の利用時間を延長してほしい。
- タブレット、スマホの充電器の貸出し。

などが挙げられている。

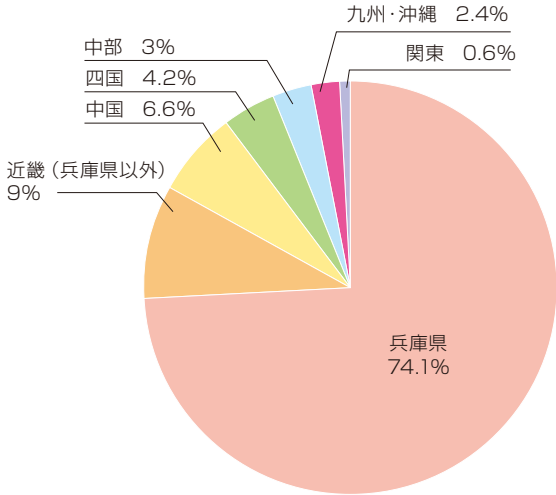
大学の対応	「各種施設の利用時間の延長」は学部学生の「大学に要望することや期待すること」の第4位でしたので、P25 の「大学の対応」をご覧ください。 「貸出物品の充実」については、適宜、物品の更新を行っています。主な貸出物品の一覧については、学生生活案内に掲載しておりますが、その他詳細については、学生支援課窓口にお問い合わせ願います。
-------	---

参考資料

入学者の地域別分布（令和3年度入学者）

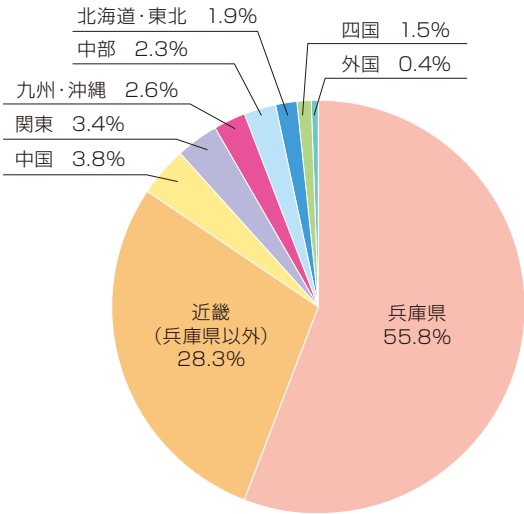


地 域	人数 (人)	割合 (%)
兵庫県	123	74.1
近畿（兵庫県以外）	15	9
中国	11	6.6
四国	7	4.2
中部	5	3
九州・沖縄	4	2.4
関東	1	0.6
北海道・東北	0	0.0
外国	0	0.0
合 計	166	100.0



修士課程
専門職学位課程

地 域	人数 (人)	割合 (%)
兵庫県	148	55.8
近畿（兵庫県以外）	75	28.3
中国	10	3.8
関東	9	3.4
九州・沖縄	7	2.6
中部	6	2.3
北海道・東北	5	1.9
四国	4	1.5
外国	1	0.4
合 計	265	100.0



令和3年度奨学金受給者数

日本学生支援機構奨学金

【単位：人】

学種・学年		給 付	第 一 種	第 二 種	学 年 計	学種別合計	奨学生割合	
学 部		1年	17	28	27	72	298	44.1%
		2年	16	30	28	74		
		3年	19	35	22	76		
		4年	24	38	14	76		
大 学 院	修士課程	1年		19	6	25	49	13.7%
		2年		22	2	24		
	専門職学位課程	1年		12	1	13	28	13.5%
		2年		8	4	12		
		3年		2	1	3		
	博士課程	1年		2	0	2	9	5.4%
		2年		2	1	3		
		3年		4	0	4		
合 計		76	202	106	384	384	27.3%	

第 15 回（令和 3（2021）年度）学生生活実態調査報告書

令和 4 年 3 月発行

編集 兵庫県教育大学学生委員会

委 員 長	笠原 恵（教育実践高度化専攻）
副委員長	溝邊 和成（教育実践高度化専攻）
委 員	須田 康之（理事・副学長）
	水落 洋志（人間発達教育専攻）
	掛川 淳一（人間発達教育専攻）
	山口 眞琴（教育実践高度化専攻）
	森田 啓之（人間発達教育専攻）
	尾白 泰次（教育研究支援部長）

兵庫県教育大学 教育研究支援部 学生支援課
〒673-1494 兵庫県加東市下久米 942-1